

体験の風を
おこそう

平成30年度

所 報
—事業の成果と記録—



独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立諫早青少年自然の家

はじめに

国立諫早青少年自然の家は、平成30年3月に事業（受入れ）開始から満40年を迎えました。平成30年度においても、多くの方々に利用いただき、また、教育事業に参加していただいていることに感謝いたします。

当所では、国立青少年教育施設として、青少年指導者の養成・資質向上を図る研修事業を実施すること、また、青少年を対象にした現代的な課題・今日的な問題に対応したモデル事業に取り組み、その成果を発信・普及していくことが重要な使命です。

この度、平成30年度の当所の事業運営及び管理運営の活動の中から、当所として特に事業成果の発信として、また、記録すべきものについて取りまとめました。関係の皆様には、ご一読いただきご意見ご感想をお聞かせいただければ幸甚に存じます。

学校教育においては、新学習指導要領の実施に向けた動きが進む中、集団宿泊活動で行う体験活動と教科等との関連を図り、各教科等で身につけた資質・能力を総合的に活用して実践する場として、当所における効果的な学習を展開するためのプログラム開発等をすすめています。

また、小学校においては、中学年に外国語活動、高学年に外国語科が導入されることもあり、自然体験活動の中で外国語を話し、聞くことを通して、言語や文化について体験的に理解を深めるなどのイングリッシュ・キャンプを諫早市の協力を得て実施しました。

さらに、中学校進学時の急激な変化になじめない、いわゆる“中1ギャップ”に対応したプログラム開発について、長崎大学、諫早市教育委員会、諫早市PTA連合会と連携を図り、当所の看板事業という位置付けとして実施しています。

一方、指導者等の育成・資質向上を図る面では、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する指導者を養成する研修事業を行うほか、グループづくり・人間関係づくりなどに役立つ教育プログラムの実践・普及に積極的に取り組んでいます。

管理運営においては、地域の青少年団体、NPO、企業、学校、地方公共団体、地域住民の方々等多様な主体が当所の管理運営や事業の企画・実施に参画する、すなわち地域に支えられた施設の管理・運営をさらに進めるとの考えのもと、新たな施設業務運営委員会を立ち上げたところです。

他にも長崎県と連携したプログラム開発や地元諫早市をはじめとした関係施設・機関との連携・共催など、様々なことに取り組み、それらが今後の当所の事業等の質の充実と利用の拡大につながるよう、不断の努力を続けたいという思いでいます。

事業の実施はもちろん、施設の管理運営にあたりご指導いただきました皆様、共催・後援・協力をいただきました皆様、ご支援・協力をいただいたボランティアや地域の皆様方に心より感謝申し上げます。

平成31年3月 国立諫早青少年自然の家 所長 内山祐二郎

<目 次>

I 教育事業の報告

1. 地域力向上事業	2
「教科等に関連付けた体験プログラム開発事業」	
2. 指導者養成事業	21
「グループづくりに役立つプログラム研修会」	
3. その他の事業	27
「イングリッシュキャンプ」	
4. 事業実績一覧	31

II 事業・管理運営の記録

1. 平成30年度利用実績	
(1) 利用者数・利用団体数・稼働率	32
(2) 平成23年度から平成30年度までの利用者数・利用団体・稼働率	33
(3) 団体種別利用状況	34
(4) 県別利用状況	35
(5) 県ごとの団体種別利用実績	35
(6) 長崎県内市町ごとの利用状況	36
(7) 長崎県内市町ごとの団体種別利用実績	36
(8) 宿泊日数別利用状況	37
(9) 利用者アンケート	37
(10) 活動プログラム別利用状況	37
(11) 開所からの利用状況	38
(12) 傷病発生状況	39
2. 利用者の安全及びサービス面の向上のために	40
(主な工事・施設保全・物品購入の状況)	
3. 施設業務運営委員	45
4. 組織図・職員名簿	46

III 参 考

2019年度事業計画	47
------------	----

I 教育事業の報告

1. 地域の教育力を向上させる開発事業（地域力向上事業）

「教科等に関連付けた体験活動プログラム開発事業」

国語科に関連付けた「ふりかえり」活動で目指す「主体的・対話的で深い学び」

【担当 原 将成】

(1) 事業の背景

①機構の取組

国立青少年教育振興機構（以下、当機構）では、2020年度に全面実施される小学校学習指導要領に向けて、当機構の全国 27 施設が実施する体験活動プログラムを年間指導計画に位置付けてもらうための一方策として、2017年度に「教科等に関連付けた体験活動プログラム推進委員会」を立ち上げ、各施設から学校教員経験のある職員を集め、「教科等に関連付けた体験活動プログラム作成研修」を実施しました。

この研修は、各施設が共通して活用できる汎用性の高い学習指導案を作成するもので、当所は国語科（5年生）と社会科（5年生）の学習指導案を作成しました。

そして、本年度（2018年度）、各施設において作成した学習指導案を用いた試行事業を実施・検証することとなり、当所は諫早市内の小学校の協力を得て、国語科の試行事業を実施しました。

②当所の取組

集団宿泊学習では、ほとんどの学校がしおり等を活用して児童の活動のふりかえりを行っています。しかし、「協力でできてよかった」等、漠然としたふりかえりも見られます。また、せっかく集団宿泊学習で学んだことを、事後の学校生活に活かす手立てが明確でない学校も見受けられます。

そこで、当所はプロジェクトアドベンチャーの手法である「Being」に着目し、この手法を用いた国語科の学習指導案を作成しました。Being とは、体験を通して得られた気付き・学び（目標、規範等）を模造紙等へ書き込み、メンバー間で共有する方法です。活動の節目にこの Being を囲んでふりかえりを行い、書き足していきます。Being を用いることで、集団宿泊学習の学びを視覚的・効果的にふりかえることができ、その後の学校生活にも活かすことができると考えました。

※プロジェクトアドベンチャーとは

アドベンチャーの特性である「自己との対峙、葛藤、自分自身に対する挑戦、仲間との協力、成功体験、達成感」などを生かし、人間が成長するための「気付き」を効果的に体験するための手法として、1971年にアメリカで開発されたもの。学校教育や社会教育、企業研修などの様々な場面で活用されています。

第5学年の国語科の単元に『わが町ベスト・スリー』というものがあります。本単元は、『わが町ベスト・スリー』を推薦するという目的のために、まずクラス全員が、それぞれ個別に推薦し合うために対象を調べて発表したり、聞き合ったりして、説得力ある「推薦」活動が展開できるように設定されています。

当所は、集団宿泊学習における目標達成度をより明確に、より視覚的に明らかにするために、この単元の学び方を活かして『クラスのよさ・ベストスリー』を推薦するものとしました。学級活動や道徳の時間との関連を図りながら、クラスをもっとよくするためにクラスのよさを見つけたり見直したりするという目的をはっきりさせ、クラスのよさについて理由を明確にして根拠となる情報を収集し、KJ法等を用いてまとめ、聞き手を納得させるために効果的な構成や話し方を工夫して発表し、聞き合います。詳しくは別紙（P13～21）の学習指導案をご覧ください。

単元全体の展開例（7時間）

学習過程	活動内容	時数	活動の場
話題の設定	<p>(1) 教材文を読み、「クラスのよさベスト・スリー」を推薦し合うという学習課題を持つ。</p> <p>○宿泊学習と関連させ、「クラスのよさベスト・スリー」を推薦し合うという学習課題を持つ。</p>	1	学校
情報の収集 構成の検討	<p>(2) 推薦の仕方を見通す。</p> <p>○既習学習を想起させ、推薦理由について根拠を持って推薦できる方法や工夫を見通す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結論を先に言う ・話し方の工夫を考える ・丁寧な話し方で話す ・特に訴えたいところを強調して話す ・しおりやメモ・付箋に書き留める 	1	学校
情報の収集 内容の検討 構成の検討 考えの形成 表現 精査解釈 共有	<p>(3) 宿泊学習の活動の中で見つけたグループのよさを、しおりやメモ・付箋紙等を活用して Being に表現し、グループのよさについて話し合う。</p> <p>○活動ごとに「～という活動で、～ということができたから・～という気持ちになったから、～というよさがある。」という書き方でふりかえりを書く。</p> <p>○言葉カードを用い、たくさんの気持ちを表す語彙に出会い活用する。</p>	1	自然の家
構成の検討 表現 考えの形成	<p>(4) 作成した Being をもとにクラスのよさを推薦し、「クラスのよさベスト・スリー」を決める。</p> <p>① Being をもとに推薦したいよさを3つ決め、構成メモを作る。</p> <p>○推薦したいよさを3つ決め、推薦する理由を構成メモに書く。</p> <p>② 1人ずつ発表する。</p> <p>○黒板に模造紙を貼り、キーワードを書いた付箋を貼りながら説明する。</p>	4 (1) (2)	学校

精査解釈 共有	③ 「クラスのよさベスト・スリー」を決める。 ○同じようなキーワードをまとめ、キーワードが多い観点でベスト・スリーを決める。 ○順位はあくまでもクラスのよさを全員で共通理解するためのものであり、どの観点も大事にすることを確認する。	(1)	学校
------------	---	-----	----

(2) 事業の実際

①協力校

諫早市立長田小学校 第5学年 36名（男子18名，女子18名）

②期日

1～2時目：平成30年6月19日（火），20日（水）

3時目：平成30年6月21日（木），22日（金）1泊2日

4～6時目：平成30年6月25日（月），26日（火）

③活動の様子

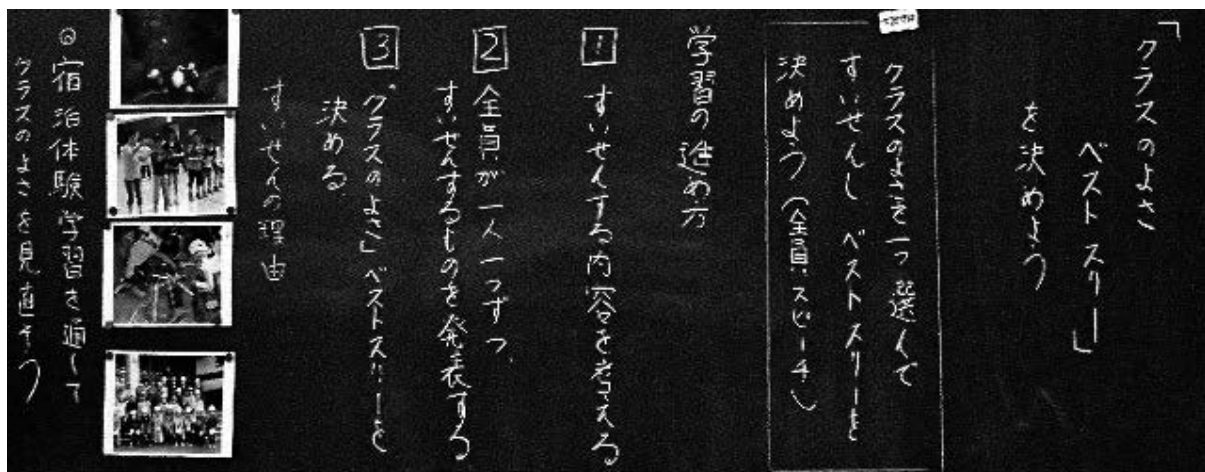
ア. 学校での事前指導（1～2時目）

学校では，担任の先生が次のような指導をしました。

①教材文を読み，「クラスのよさベスト・スリー」を推薦し合うという学習課題を持つ。

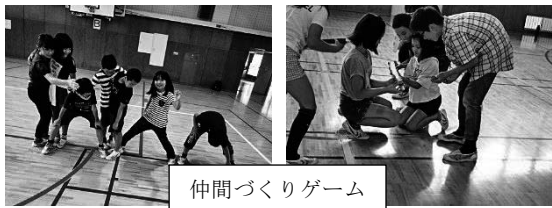
②推薦の仕方を見通す。

子供たちは，より宿泊学習の目的を理解し，自他のよさを見つけたいという思いを強くしました。



学習の見通しの板書

イ. 自然の家での指導（3時目）



仲間づくりゲーム



野外炊事



沢登り



ふりかえりシートにまとめる様子

子供たちは、自然の家で様々な体験をしました。

仲間づくりゲームでは、お互い支え合ったり、力を合わせたりして課題をクリアしていきます。協力する必然性がある内容となっています。

野外炊事では、子供たちが火をおこすのに悪戦苦闘していました。何度も失敗していましたが、その度にお互い声をかけながら協力し合う姿を見ることができました。

最終日の沢登りでは、お互い支えながら滝を乗り越えていく姿を見ることができました。

初日から最終日まで自他のよさを見つけるという目標を立ててプログラムを組んでいたため、一貫した指導の積み上げを行うことができ、効果的な学びになりました。

上記の学びを効果的にふりかえることができるように、ふりかえりの書き方を指導しました。下図のように「よさとつなぎ言葉、結果」を意識してまとめました。書くことが苦手な児童も例を見ながら書くことができ、全員要点を絞ったまとめを行うことができました。

ふりかえりシート板書 **活動の自分やグループのよさのふりかえりをしよう** 補助教材①（ふりかえりシート板書計画） 国立障害者こども自然の家

○方法

- ① ふりかえりシートに「イニシアティブゲーム」「沢登り」「野外炊事」のふりかえりを書く。
※ 言葉カードを参考にしよう！
- ② グループ内で発表する。
- ③ ビーイングの自分スペースに、自分が「大切にしたいこと」「頑張りたいこと」を書く。
- ④ 自分チェックをする。

○書き方

「〇〇の活動では	～ということができました。 ～をがんばりました。	その結果 そのことで	～ということになりました。 ～という気持ちになりました。」
「〇〇の活動では	～というよさを見つけました。	理由は	～ということができたからです。 ～という気持ちになったからです。」

○例

「カレーがまるこげになった時ドンマイと声をかけることができました。それでみんなが笑顔になったからよかったです。」
「イニシアティブゲームでは支え合うよさを見つけました。理由は、ゲームで騒ぎそうになった時、〇〇さんが手を差し伸べてくれて心がホカホカになったからです。」

言葉カード

言葉カードは、気持ちを表す言葉を集めたものです。言葉カードを参考にして、今の気持ちや活動中の気持ちをふりかえりましょう。

わくわく	ドキドキ	びりびり	むむむ…	キラキラ	ルンルン
するっと	ナイス!	えーん	ぶん	じんじん	わっはっは
わーい	ほんわか	もんもん	グサッ	しっくり	ずどーん
ゆらゆら	いーね	ギクッ	はっ	わさわさ	ゆるゆる
びったり	じわー	しゅん	がっかり	むくむく	どっかーん
ポロポロ	ぐぐっと	しまった	テクテク	まあまあ	むかつ
ほっ	やったあ	うーん	どろどろ	はあー	あちゃー
じりじり	どうして	しらー	くらくら	ありがとう	あれあれ
ふらふら	ショック	ギスギス	どよーん	ぬくぬく	ずーずー
ひゃっ	まじまじ	よーし	キャー	びかつ	びったり
がーん	きゃっ	がちり	ドンマイ	しっとり	すっきり

下の写真は、ふりかえりシートを使った交流の様子です。すべての子供たちが書くことができ、自信を持って意見を発表することができました。

書くことに困難を感じる児童への支援の手立てとして、左図の言葉カードをふりかえりシートに掲載しました。活動を終えた“今”の気持ちにしっくり合う言葉を選んで、文章に表現します。このことは、児童の語彙力にもつながります。



班の交流の様子

Being作成板書

「ビーイング(Being)」の書き方

補助教材① (Being作成計画)
国立障害者こころの支援センター

- ①模造紙(もぞうし)に手形を書く。
- ②手形の中に自分の名前を書く。
- ③活動を通して感じた、
 - 自分のよさをもっと出せるために、
 - 仲間がもっと仲良くなるために、
 - 自分が「大切にしたいこと」「続けたいこと」「よかったこと」等を書き込む。**
- ④手形に書いたことを発表し合う。
- ④みんなで、グループで「大切にしたいこと」「続けたいこと」を話し合いながら中央に書き込む。

・私がゲームで失敗した時にみんながドンマイと声をかけてくれてすごく安心した。だから、みんなで失敗してもドンマイと声をかける、とかどう？

・僕も野菜をこぼした時に、みんなが笑顔でドンマイって言ってくれてとても助かったの、賛成です。それに笑顔も付け加えようよ。
- ⑤中央に書いたことを次の活動につなげる。
- ⑥活動ごとにビーイングを囲んでふりかえりを行い、ビーイングにさらにパワーアップする。



Being 作成の様子

上図はBeingの書き方です。まず、模造紙に手形を書き、その中に自分が“よさ”をもっと出せるために、仲間がもっと仲良くなるために、自分が「大切にしたいこと」「続けたいこと」「よかったこと」を書き込みます。

そして、自分の手形に書き込んだことを話し合います。

次に、グループで「大切にしたいこと」「続けたいこと」を話し合いながら、合意形成したことを書き込んでいきます。

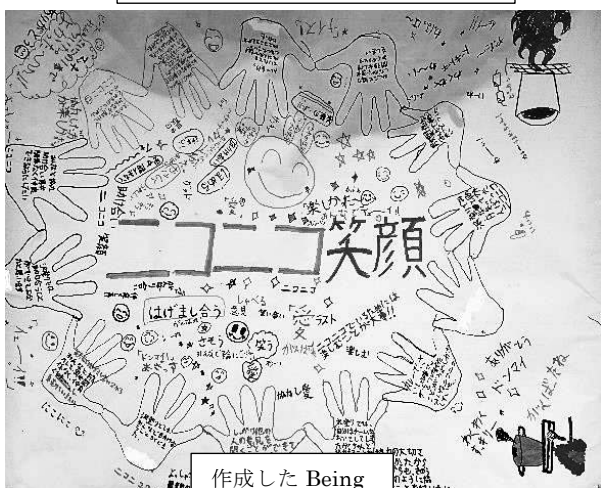
子供たちは、個人やグループで書き込んだことを大切にして次の活動につなげます。例えば、笑顔で励ましあうことを大切にしたいと書いたら、次の活動では実際に笑顔で励ましあうことを意識して取り組みます。このことは学習指導要領 特別活動編の第4節4(1)イ「体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実すること」につながります。

さらに、活動後時間が経つと学びを忘れてしまいがちですが、Beingにまとめておけばその時の様子や気持ちを思い出すきっかけとなります。

ウ. 学校での事後指導（４～６時目）



学校に戻った後の Being 活用の様子



作成した Being

学校に戻った後、活動を思い出すために、Being を活用しました。Being を囲みながら、宿泊学習で何をしたか、何を学んだかを話し合い、再度 Being を書き込みました。「Beingのおかげですぐに思い出すことができました。」「みんなで書き込む時、私のよさをみんなが教えてくれて、初めて自分のよさを知ることができて自信ができました。」等の声を聞くことができました。

宿泊学習を十分に想起した後、クラスのよさベストスリーを推薦するために、観点別に構成メモを作成しました。どの児童も事実と自分の考えを書き分けることができました。自分で経験しているので、よさについて生き生きとした文章を書くことができました。以下に児童の文章を紹介します。

『助け愛』

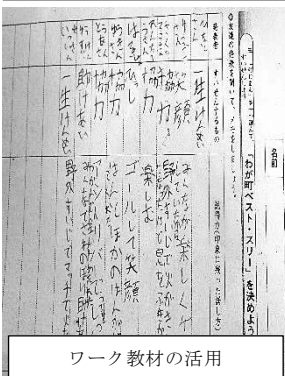
理由は沢登りの時、～さんが沢を登れていなかった時に、みんなで後ろを支えてあげるのと前から引っ張ったので、無事にみんなでゴールできたからです。

『一生懸命』

野外炊飯の時、マッチがなかなかつかなくて、ラスト1本の時、みんなが「～ならできる。」と言われてうれしかったけれど、つかなかったことを思って緊張しました。だけど、班のみんなが一杯声をかけてくれて、みんなとても一生懸命で、『えいっ』と思い、マッチをつけて木の赤ちゃんにつけたら、火がつかしました。とてもうれしかったです。一生けん命した甲斐がありました。

『かけ声』

私達のクラスは、かけ声をあまりかけていませんでした。だけど、宿泊学習に入ってから変わりました。沢登りでは、「ここ深いから気をつけて！」など自分で気が付いた危なかった事などを掛け声に変えて言いました。そのことで、みんな怪我をしませんでした。

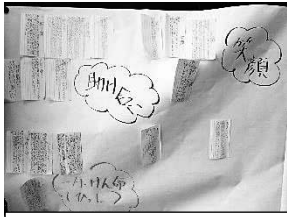


ワーク教材の活用



ベストスリーの根拠の発表

作成した構成メモを元に全員が発表することができ、普段、書くこと・話すことが苦手な児童も自信を持って発表することができました。子供たちは宿泊学習の写真を手に推薦文を発表しました。聞き手は、教科書のワーク教材を活用してメモを取りました。教材のワークをそのまま活用できることも無理なく運用できるポイントです。



付箋を使った意見の集約

ベストスリーを決める際、付箋を活用しました。発表した付箋を観点別に貼り分けて、キーワードに表して項目を絞りました。項目を絞った後、話し合いを行い、ベストスリーを決めました。この話し合い活動は、根拠を話し合いながら決める国語科の学びを行いつつも、道徳的価値を深めることにもつながります。

話し合いの結果、ベストスリーに敢えて絞らず、『協力』『笑顔』『一生けん命』『助け愛』『励まし合い』のベストファイブに決まりました。

(3) 成果と課題

以下に教師用アンケートと児童用アンケートの結果を掲載します。

教師アンケート（全5人回答）

① 実施したプログラムの満足度はいかがでしたか。



満足

○5年生は表現することが苦手であったが、この活動を通して表現することの楽しさを味わえたと思う。この体験が多くの子どもの自信につながったと思う。

○普段発表な苦手な子どもも含めて、全員発表することができた。

○苦手な児童であっても、それなりに書くところまでたどり着ける姿があった。

○たんぼぼ学級の子どもが振り返りシートを書く際に、言葉カードを活用することによって、『一生懸命』『やったあ』『笑顔』等の言葉を選んで沢登りや野外炊飯での気持ちを書くことができた。そこから成就感を見取ることができた。

○ふり返りシートの自己評価や話し合いの様子、構成メモ等、児童を評価する観点がたくさんあり、きめ細やかな児童の変容を見取ることができた。

○子ども達が変わったと感じる。活動を通して、助け合うとは何か、支えあうとは何か、具体的に子どもも立ちあつかむことができたと思う。その思いを生かしてほしい。

やや満足

○子ども達の一人ひとりが良いところ悪いところに向き合っていたと思うし、グループの中でどうにか力を合わせていこうというのがとても伝わり、成長に繋がったと思う。

教師アンケート（全5人回答）

② 次年度以降も継続して実施したいと思いますか。



実施したい

○(宿泊学習のよさから)

要検討

●担任としてはとても良い活動であったので実施したいと思うが、来年の5年の担任の意向も確認が必要。

●今回のような協力体制が構築できると絶大な効果があるのは間違いない。ただ、学校側・施設側の一方でその意識が少ないと難しい。

教師アンケート（全5人回答）

③ 施設においてプログラムを実施することにより、単元における児童の学びは、主体的・対話的で深い学びとなりましたか。



【理由】

なった

- ベストスリーを決める話し合いが、自然と主体的になっていた。
- 児童が自然の家でしかできない体験をしたからこそ、思いを素直に話し合うことができた。
- 手立てがしっかりしていたので、教師は見取る側に徹することができた。

ややなった

- 活動直後は体験したことがはっきり残り、子ども達も感じたことを強く思っていた。しかし、時間が経つと少し薄れてきているので、機会を捉えてあの時の気持ちを思い出させていく事も必要になってくる。学校に戻っても活用できるBeingという手法は大切だと強く感じた。

教師アンケート（全5人回答）

④ プログラムを、より主体的・対話的で深い学びとするために必要なことはありますか。

②学校での事前・事後学習を含めた単元全体の指導案 2人

③ワークシートや教具などの指導用資料 3人

【理由】

- 自然の家の先生と連携することができた。事前の打ち合わせが大切。
- 今回は①②と原先生が自ら動いてくださったおかげで形に残すことができたし、その中から③のアイデアも共有、レベルアップできたと思っています。やはり、③のネタとなる部分が重要だと思います。
- 関わっていく人達が同じ思いで進んでいくことが大切だと思う。その上で、それぞれ自分の役割について考え、いろいろな人達の思いを出すことによって、その子ども達にとって最適な計画ができると思う。

教師アンケート（全5人回答）

⑤ 本プログラムが他の学校でも実施できるようにするために必要なことは何ですか。

- 担任と自然の家の先生と、どのような点で打合せをしていくかが明確になっていること。
- 学校側・施設側がいかにして同じベクトルで事業に取り組んでいけるか、また、そこに協力体制を構築できるかだと思う。
- 関わる人がどんな思いで進めようとするのか、どんな気持ちで計画しようとするのか、それをしっかり出し合うことが大切だと考える。そうしないと、その子達によりよいベストなプログラムはできないのではないかなと思う。

児童アンケート

① 今回の学習では以前より発表できましたか？



- ・思ったことをそのまま言えるようになったから
- ・メモを基に発表できたから
- ・Beingを見たら発表しやすかったから
- ・発表する毎に自信がついたから
- ・チームの中で意見を出し合えたから
- ・クラスのよさを伝えたかったから
- ・チームが良くなるために勇気を出せたから
- ・自分で体験したから
- ・たくさんよさをみつけたから
- ・体験で自信がついたから

児童アンケート

② 今回の学習で自分や班・クラスのよさをみつけることはできましたか？



- ・みんなで協力したから
- ・体験してみんなのよさが分かったから
- ・活動の時友達から声をかけてもらったから
- ・一人でできないことをみんなでしたらできたから
- ・意見を出し合ったから
- ・体験が楽しいから

児童アンケート

③ 今回の学習で以前より書くことができるようになりましたか？



- ・結論を先に書いて理由を後に書くという方法を学んだから
- ・書くことが楽しいと思えたから
- ・理由を書くときに、振り返りシートやメモを使うことによって自然と書くことができたから
- ・楽しかった気持ちをBeingに残したかったから。忘れたくないから
- ・Beingを書いて楽しかったから
- ・Beingを使うと気持ちが出しやすかったから
- ・みんなが意見を出し方から
- ・自分で体験して書くきっかけができたから

児童アンケート

④ 今回の学習で使えた！と思うものに「○」で囲んでください（いくつでもいいです）

言葉カード

16人

ふりかえりシート

20人

ビーイング

35人

構成メモ（ふせん）

27人

- ・ Beingは協力が目に見えるから
- ・ Beingを見ればよいところがすぐに分かるから
- ・ Beingを見たらよさを思い出すことができるから
- ・ Beingを見たら結論がすぐ分かり文を書きやすいから
- ・ 構成メモは前の学習でも使ったから
- ・ 構成メモを使えば、頭の中や書くときに整理しやすいから
- ・ 構成メモは発表の時にすぐ使え、発表しやすかったから
- ・ 体験したことを振り返りシートにその日のうちに書いたから書きやすかったから
- ・ 振り返りシートに、書き方やいろんな言葉が載っていたから便利だったから
- ・ 振り返りシートからメモを作ることができた
- ・ 全部必要だった。おかげで発表回数が増えたから

児童アンケート

⑤ 自分に自信ができましたか？

21人

15人

0人

0人

とてもよくできた

できた

あまりできなかった

できなかった

- ・ 結論を先に書いて理由を後に書くという方法を学んだから
- ・ 書くことが楽しいと思えたから
- ・ 理由を書くときに、振り返りシートやメモを使うことによって自然と書くことができたから
- ・ 楽しかった気持ちをBeingに残したかったから。忘れたくないから
- ・ Beingを書いて楽しかったから
- ・ Beingを使うと気持ちが出しやすかったから
- ・ みんなが意見を出し方から
- ・ 自分で体験して書くきっかけができたから

以上のように、教師と児童にとってこのプログラムは有用であったことが分かりました。しかし、宿泊学習の時期と単元の時期が合わないという課題があります。このプログラムの最大のよさは、ふりかえりの観点をもとに焦点化し、Beingを使って視覚化していることです。そこで、Beingを取り入れることが容易な単元（29年度）を以下に掲載します。

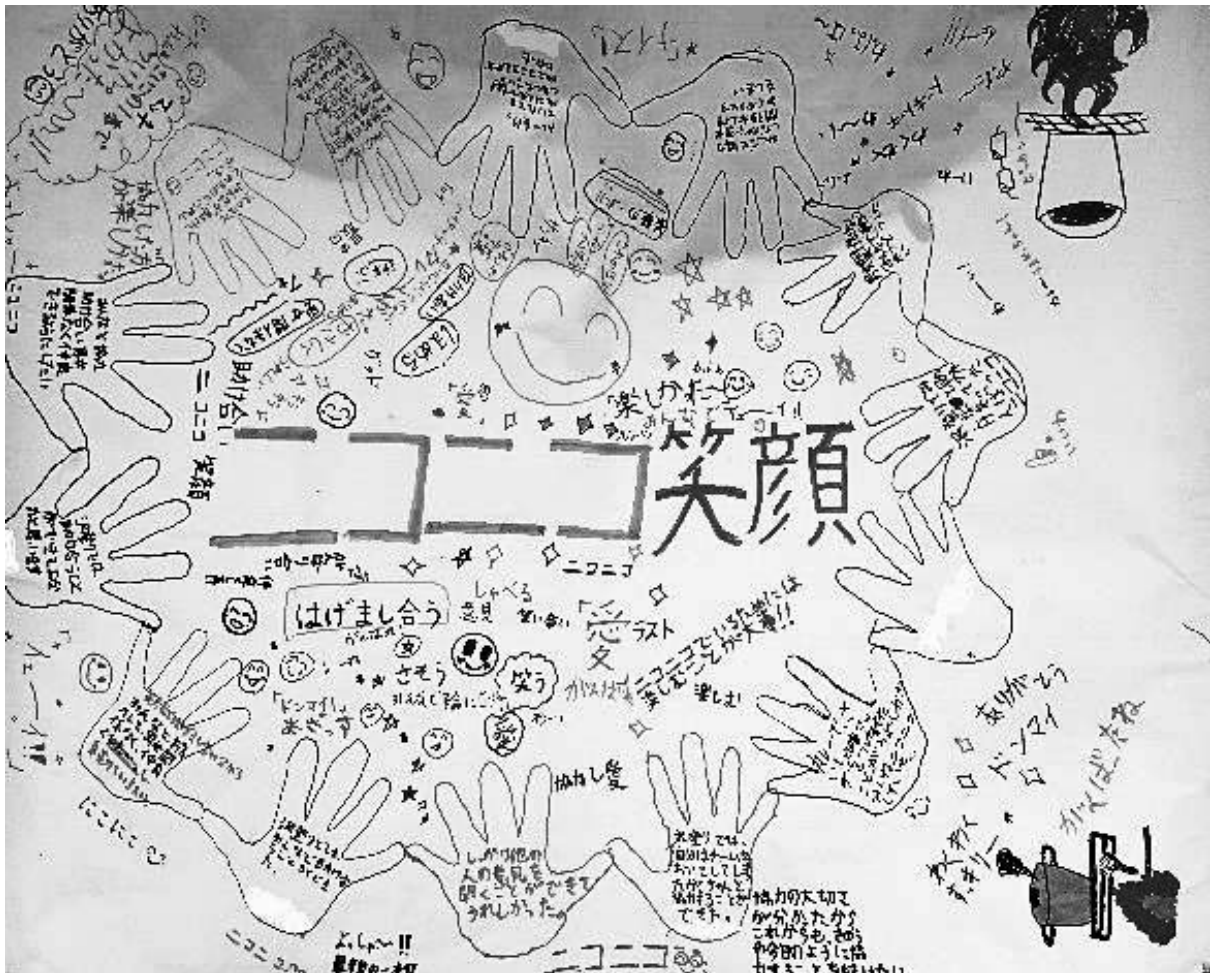
教科書会社名	単元名・教材名	時数	配当月
東京書籍	伝えよう、委員会活動 【言葉の力】活動報告を書く／リーフレットを書く	8	1月
学校図書株式会社	3. 自分の考えを提案しよう 「学校を100倍すてきにする方法」	7	6月
三省堂	人との関わりの中で	6	6月
	グループ新聞	6	10月
	見学レポート	8	12月

教育出版	しょうかいポスターを作ろう	7	5月
	三「町じまん」をひとつ選んで、すいせんしょう 「わが町ベスト・スリー」を決めよう	6	6月
	六 活動を報告する文章を書いて、文集にまとめよう クラスで活動報告をしよう	6	2月
光村図書	3 事実と考えを区別して、活動を報告する文章を書こう 次への一歩-活動報告書	10	7月

工夫しだいでは、これらの单元以外にも **Being** を活用できると思います。

今後は国語科以外でも、このような **Being** を取り入れた宿泊学習を展開し、よりよい人間関係作りを行っていただけたら幸いです。

よりよい人間関係が、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながり、他者と関わりながらお互いを高めあう体験が学びのモデルとなり、すべての教科学習に広がっていくことで、ひいては学力の向上へとつながるのではないのでしょうか。



第5学年 国語科学習指導案

1. 単元名 クラスのよさを、すいせんしよう
～『クラスのよさベストスリー』を決めよう～

○学習指導要領 国語 学習内容項目とのかかわり

1 [知識及び技能]

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。

オ 思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

(2) 情報の扱い方に関する事項

イ 情報と方法との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

2 [思考力、判断力、表現力等]

A 話すこと・聞くこと

ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。

イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。

ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

オ 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

2. 単元の目標・評価規準

単元目標

推薦するクラスのよさが伝わるよう、宿泊学習の具体的な姿から根拠を持って説明したり、納得できるかどうか留意して聞いたりすることができるようにする。

各資質・能力及び目標と評価規準

育成する資質・能力	目標	評価規準
知識及び技能	よさみつけで思考に関わる語句を理解し使うことや、よさみつけの内容のグループ分けを図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことを通して、日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> よさみつけで思考に関わる語句を理解し使うことができる。(1)オ よさみつけの内容のグループ分けを図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(2)イ
思考力 ・判断力 ・表現力等	『クラスのよさベスト・スリー』をつくり、クラスのよさを実感するために、クラスのよさが明確に伝わるように宿泊学習における活動の姿とクラスやグループのよさを関係付け、話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すとともに、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして振り返り(Being)を活用して考えを	<ul style="list-style-type: none"> 『クラスのよさベスト・スリー』をつくり、クラスのよさを実感するために、クラスのよさが明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。Aイ 宿泊学習における活動の姿とクラスやグループのよさを関係付けることができる。Aア

	まとめることを通して、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして振り返り (Being) を活用して考えをまとめることができる。Aエ 『クラスのよさベスト・スリー』をつくるために互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。Aオ
学びに向かう力・人間性等	人のよさを表す肯定的な言葉を使うことにより、言葉の持つよさを認識するとともに、言語感覚を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的な言葉の持つ語感、言葉の使い方に対する感覚などについて感心をもち、Being に表そうとしたり、クラスのよさベストスリーをまとめようとしたりしている。

3. 単元構想

(1) 集団宿泊学習として学習することのよさ

学校ではできない集団宿泊学習ならではの体験学習を行うと、子供達は自他のよさを再発見したり新たに気付いたりする。その気づきをフィードバックするために、ほとんどの学校でしおり等を活用して児童の活動の振り返りを行っている。

しかし、「協力できてよかった。」等、漠然とした振り返りも見られる。また、せっかく集団宿泊学習で学んだ事を、事後の学校生活に活かす手立てが明確でない学校も見受けられる。



そこで、Being を取り入れた国語科学習を展開する。Being とは、体験を通して得られた気づき・学び (目標、規範等) を模造紙等に記載し、メンバー間で共有する方法である。活動の節目にこの Being を囲んで振り返りを行い、書き足していく。この Being は学校でも行事等の節目で継続的に活用でき、学級経営に役立つことができる。

本単元は、『わが町ベスト・スリー』を推薦するという目的のために、まずクラス全員が、それぞれ個別に推薦し合うために対象を調べて発表したり、聞き合ったりして、説得力ある「推薦」活動が展開できるように設定されている。ここでは宿泊学習における目標達成度を、より明確に・より視覚的に明らかにするために、この単元の学び方を活かして『クラスのよさ・ベストスリー』を推薦する。学級活動や道徳の時間と関連を図りながら、クラスをもっとよくするためクラスのよさを見つけたり見直したりするという目的をはっきりさせ、クラスのよさについて理由を明確にして根拠となる情報を収集し、それらを聞き手を納得させるために、効果的な構成や話し方や KJ 法等を用いたまとめ方を通して、発表し、聞き合う。

このことは、特に国語科の「学びに向かう力・人間性等」に示されている言葉が持つよさ・言語感覚について必然性・即時性・継続性を持って養い、生きて働くことができると考える。

さらに、学習指導要領 特別活動編の第 4 節 4 (1) イ「体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実」することにつながり、宿泊学習の成果物 Being を用い、活動の節目や事後に、話す、聞く、読む、書くなどの活動を効果的に取り入れることができ、言語力の育成の面からも大変意義深い。

また、体験活動を通して自分自身について考えたことを、学級活動 (3) 「一人一人のキャリア形成と自己実現」において、ポートフォリオ的な教材等を活用した学習と関連付けることも考えられる。

(2) 学習過程と単元計画 (7時間)

学習過程	活動内容	時数	活動の場
話題の設定	(1) 教材文を読み、「クラスのよさベスト・スリー」を推薦し合うという学習課題を持つ。	1	学校
構成の検討	(2) 推薦の仕方を見通す。	1	学校
情報の収集 構成の検討	(3) 宿泊学習の活動の中でみつけたグループのよさを、しおりやメモ・付箋を活用して Being に表現し、グループのよさについて話し合う。	1	自然の家
情報の収集 内容の検討 構成の検討 考えの形成 表現 精査解釈 共有	(4) 作成した Being をもとにクラスのよさを推薦し、「クラス のよさベスト・スリー」を決める。 ① Being をもとに、推薦したいよさを3つ決め、構成メモ を作る。	4 (1)	学校
考えの形成 表現	② 一人ずつ発表する。	(2)	
精査解釈 共有	③ 「クラスのよさベスト・スリー」を決める。	(1)	

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の視点

1) 「主体的な学び」

① 目指す子供の姿

既習学習であるメモや付箋等を活用したまとめかたを使い、根拠を明確にさせクラスの一員としての自分の成長を自覚する姿を目指す。

② 指導のポイント

宿泊学習の目的を想起させ、「クラスのよさベスト・スリー」を推薦するという学習の見通しをもたせる。その際、既習学習を想起させ、メモや付箋、写真等を用いれば具体的に推薦できることを確認する。

2) 「対話的な学び」

① 目指す子供の姿

自分の考えるグループやクラスのよさを推薦する言語活動を通し、自己の考えを広げ深める姿を目指す。

② 指導のポイント

宿泊学習で実際に各活動における振り返りの時間を活用して、活動グループのよさについてしおり、メモや付箋をもとに個人で振り返りを行う。

そして、個人の振り返りをもとに、模造紙等に直接書き込んでいたり、メモや付箋を貼っていたりして Being を作成する。その際、例えば「仲間作りゲームで、男女関係無くグループで手をつないでクリアすることができました。だから、このグループは男女の仲がいいと思います。」と、事実と意見を分け、根拠を示しながら発表できるように指導する。

3) 「深い学び」

① 目指す子供の姿

推薦意見を構造化することにより現在のクラスのよさや課題を認識し、クラスをさらにより良くするための課題解決を考え、クラスへの帰属意識を高める姿を目指す。

② 指導のポイント

グループで作成した Being をもとに、グループのよさをクラスのよさとしてクラスに推薦していき、共通するよさがクラスのよさであることを理解させる。そしてクラスのよさベスト・スリーを決める。その際、マトリクス法、KJ法、ピラミッド・ストラクチャー等を用いて整理させると視覚化され、意見をまとめやすい。さらに、物と

活用することもできる。

クラスでまとめたクラスのよさは、今後の児童の目標にもなり、作成した Being も活用しながら、学級活動や特別な教科 道徳、行事等で継続的に活用していく。

4. 単元の展開

(1) 単元全体の展開例

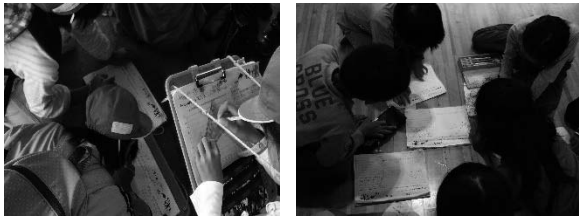
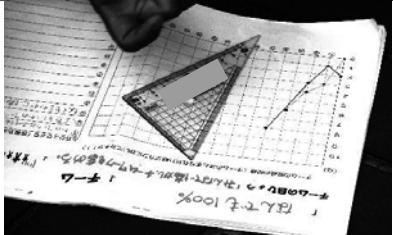


学習過程	活動内容	時数	活動の場
話題の設定	(1) 教材文を読み、「クラスのよさベスト・スリー」を推薦し合うという学習課題を持つ。 ○宿泊学習と関連させ、「クラスのよさベスト・スリー」を推薦し合うという学習課題を持つ。	1	学校
構成の検討	(2) 推薦の仕方を見通す。 ○既習学習を想起させ、推薦理由について根拠を持って推薦できる方法や工夫を見通す。 ・結論を先に言う ・話し方の工夫を考える ・丁寧な話し方で話す ・特に訴えたいところを、強調して話す ・しおりやメモ・付箋に書き留める	1	学校
情報の収集 構成の検討	(3) 宿泊学習の活動の中でみつけたグループのよさを、しおりやメモ・付箋を活用して Being に表現し、グループのよさについて話し合う。 ○活動ごとに「～という活動で、～ということができたから・～という気持ちになったから、～というよさがある。」という書き方で振り返りを書く。 ○言葉カードを用い、たくさんの気持ちを表す語彙に出会い活用する。	1	自然の家
	(4) 作成した Being をもとにクラスのよさを推薦し、「クラスのよさベスト・スリー」を決める。	4	学校
情報の収集 内容の検討 構成の検討 考えの形成 表現 精査解釈 共有	① Being をもとに、推薦したいよさを3つ決め、構成メモを作る。 ○推薦したいよさを3つ決め、推薦する理由を構成メモに書く。	(1)	
考えの形成 表現	② 一人ずつ発表する。 ○黒板に模造紙を貼り、キーワードを書いた付箋を貼りながら説明する。	(2)	
精査解釈 共有	③ 「クラスのよさベスト・スリー」を決める。 ○同じようなキーワードをまとめ、キーワードが多い観点でベスト・スリーを決める。 ○順位はあくまでもクラスのよさを全員で共通理解するためのものであり、どの観点も大事にすることを確認する。	(1)	

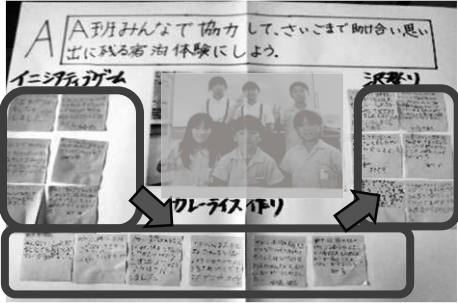
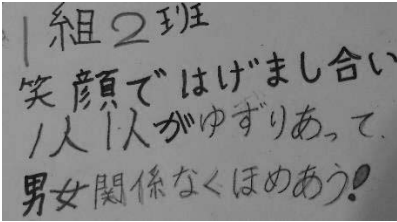
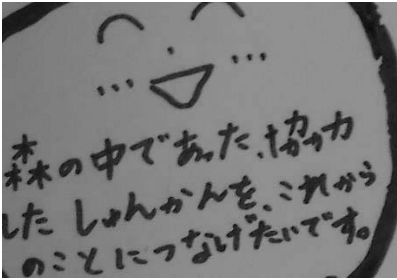
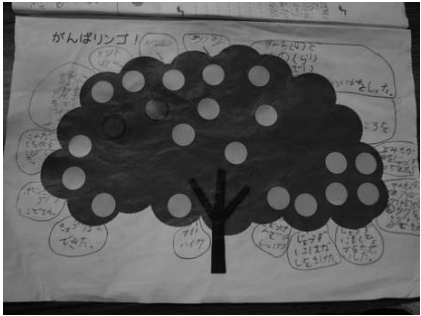
(2) 国立諫早青少年自然の家での展開【3 / 7時間・45分】

① ねらい

宿泊学習の活動の中でみつけたグループのよさを、しおりやメモ・付箋を活用して Being に表現し、グループのよさについて話し合うことができる。

② 展開例

活動	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
学習課題をつかむ	<p>1 各活動でみつけたグループのよさを書いたしおりやメモ・付箋を振り返らせ、本時のめあてをつかむ。</p> 	 <p>◎しおりには、例えば活動ごとに自分とグループの自己評価をグラフに表し、その根拠を言葉に表すことができるような構成の工夫を行うとよい。</p>	5分
<p>グループのよさを Being に書き表し、グループのよさを話し合おう。</p>			
情報を収集し表現する	<p>2 Being をグループでつくる。</p> <p>(1) 模造紙に自分の手形を書き、その中に一人ひとりグループのよさを書き込む。 ※手形以外にもハートなどでもよい。 ※グループのよさとは、宿泊学習のめあてに照らし合わせた内容である。 ※「～という活動で、～ということができたから・～という気持ちになったから、～というよさがある。」という書き方に準じて書かせる。</p> <p>その際、言葉カードを用いる手立ても考えられる。全員で活用する場合は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① まず「今どんな気持ち」と問いかけ、自分の気持ちに合ったカードを探す。 ② カードを見せ合い、「どうしてそんな気持ちになったのか」と問いかけ、上記の書き方をもとにした話し方で根拠を発表し合う。 ③ その後、模造紙に書き込ませる。という方法を取る。 <p>(2) 書き込んだよさを発表しあう。</p> 	 <p>◎文章化に対して困難を感じる児童に対しては、気持ちを表す言葉カード(参考資料)を活用する。また、語彙を増やす手立てとしても有効である。</p>	5分
<ul style="list-style-type: none"> ・野外炊事で美味しいカレーを作ることができた。みんなで役割分担ができたからだな。 ・ゲームで転びそうになった時、○○さんが手を差し伸べてくれた。心がホカホカになったよ。 ・沢登りではみんな滝を登れた。男女関係無く体を支えあったね。 			

<p style="writing-mode: vertical-rl;">考えを形成する</p>	<p>3 グループで共通するよさを話し合う。 (1) グループの中で今後も大事にしたいグループのよさは何かを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・私がゲームで失敗した時にみんながドンマイと声をかけてくれてすごく安心した。だから、みんなでも失敗してもドンマイと声をかける、とかどう？ ・僕も野菜をこぼした時に、みんなが笑顔でドンマイって言ってくれてとても助かったので、賛成です。それに笑顔も付け加えようよ。 </div> <p>※学校で学習した推薦の仕方を想起し、話し合う。</p> <p>(2) 話し合っただけ決めたグループのよさを中央に書き込む。 ※一つに絞らずに、グループ内で共通理解を得られれば、複数書き込んでもよい。</p>	<div style="text-align: right;">15分</div>  <p>◎Beingの書式は特に決まっていはいない。上の写真のように活動の時系列に沿って作成することも考えられる。時系列に沿った形式は、個人やグループの変容を見取ることができる。</p> <div style="text-align: right;">5分</div>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">考えを共有する</p>	<p>4 まとめたグループのよさを、今後の宿泊学習や学校生活でどのように活かしていくのかを話し合う。</p> <div style="text-align: center;">   </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの時、男女関係無く手で支えあったことで、できることができた。今までは学級会で男子と女子で意見が分かれてけんかすることもあったけど、今度からはお互いの意見を分け合っで決めていけたらいいな。 ・みんなで知恵を出し合ったらいいアイデアができた。前よりもみんながまとまったので、忘れないで続けていきたいね。 </div>	<div style="text-align: right;">5分</div> <p>◎振り返りは最終日だけでなく、1日毎に行うと効果的である。</p>  <p>◎個の高まりは、例えばしおりにシールに貼ると視覚的に表すことができ、意欲も高まる。</p> <p>◎宿泊学習では、学校と比べて個の我が出やすい。必ずしも仲間作りがうまくできない場合もある。連帯感や所属感を大切にすあまり、過度の同調圧力にならないよう十分配慮する。課題が見つかることも成果の一つであると捉える気構えが必要であり、そのためにも普段からの学級経営での支持的風土の醸成が必要不可欠である。</p>

<参考資料>言葉カード

言葉カードは、気持ちを表す言葉を集めたものです。今の気持ちや活動中の気持ちを振り返り、気持ちの変化がなぜ起こったのかを考えることにより、「～という活動で、～ということができたから・～という気持ちになったから、～というよさがある。」という記述につながると考えます。

(例)

わくわく	ドキドキ	ぴりぴり	むむむ…
するっと	ナイス！	えーん	ぶん
わーい	ほんわか	もんもん	グサッ
ゆらゆら	いーね	ギクッ	はっ
ぴったり	じわー	しゅん	がっかり
ポロポロ	ぐぐっと	しまった	チクチク
ほっ	やったあ	うーん	どろどろ

活動プログラム／振り返り活動

5年 国語 クラスのよさを、すいせんしよう ～『クラスのよさベスト・スリー』を決めよう～

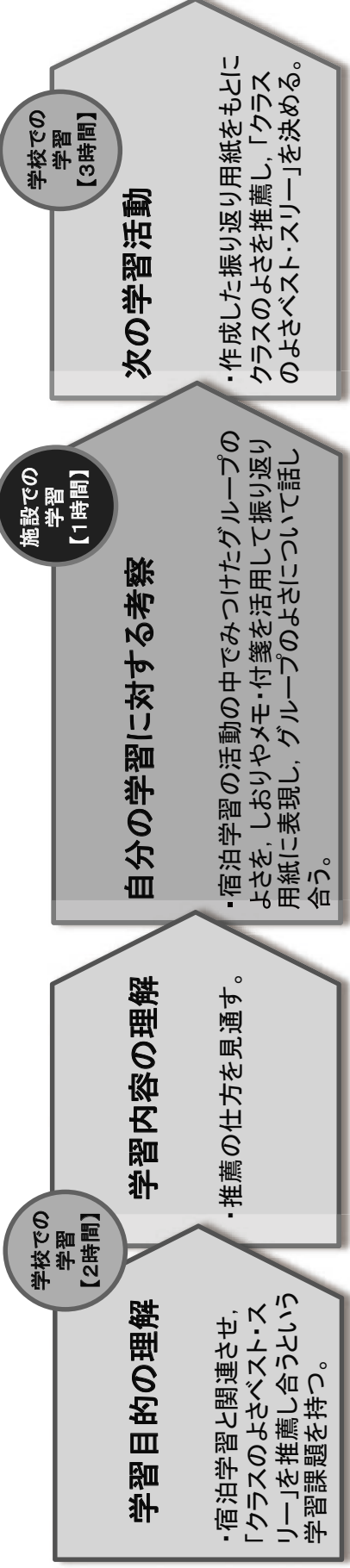


単元の 目標

推薦するクラスのよさが伝わるよう、宿泊学習の具体的な姿から根拠を持って説明したり、納得できるかどうかに留意して聞いたりすることができるようにする。



◆学習過程と活動の流れ



◆育成する資質・能力

- 知識・技能
 - 思考力・判断力・表現力
 - 学びに向かう力
- よさみつけで思考に関わる語句を理解し使うことや、よさみつけの内容のグループ分けを図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことを通して、日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けること。
- 宿泊学習における活動の姿とクラスやグループのよさを関係付け、話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すとともに、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして振り返り用紙を活用して考えをまとめることを通して、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げること。
- 人のよさを表す肯定的な言葉を使うことにより、言葉の持つよさを認識するとともに、言語感覚を養うこと。

2. 指導者養成事業

グループづくりに役立つプログラム研修会

①入門編：平成30年6月16日（土）～6月17日（日）

②応用編：平成30年11月23日（金・祝）～11月25日（日）

【担当：山口 圭吾, 原 将成】

(1) 企画

①背景

当所では、学級集団やクラブチームなどのグループづくり・人間関係づくりなどに役立つプログラムの一つとして、「プロジェクトアドベンチャー」などに代表されるアドベンチャー教育プログラム*の実践・普及に力を入れています。

今年度はこの普及に向けて、①初心者を対象とした「入門編」、②経験者を対象とした「応用編」の2種類の研修会を開催しました。

②ポイント

ア. 入門編

これまで、本研修会は外部講師に指導を依頼していましたが、コスト（事業費）削減などの観点から、「入門編」は当所職員が指導を行うこととしました。

イ. 応用編

「応用編」は、アドベンチャー教育の手法や背景にある理論を学び、その後の実践につなげることを目的としました。アドベンチャー教育の手法は、新学習指導要領にある「主体的・対話的な深い学び」にも深く関係する部分があり、学校現場に生かせる内容とすることを意識しました。

③趣旨

ア. 入門編

グループの力を生かすプログラムの体験を通して、アドベンチャー教育の基本となる手法や理論の習得を図ります。

イ. 応用編

アドベンチャー教育に基づくプログラムの体験を通して、グループづくりや人間関係づくりに役立つ手法・理論の習得と、教育現場に活かす企画力の向上を図ります。

④期日

ア. 入門編：平成30年6月16日（土）～6月17日（日）1泊2日

イ. 応用編：平成30年11月23日（金・祝）～11月25日（日）2泊3日

* アドベンチャー教育プログラムとは、「自己との対峙」「葛藤」「挑戦」といったアドベンチャーの特性を生かし、自らの体験やそれに基づくふりかえりから「自らのチカラ」、成長するための「気づき」「学び」を効果的に学ぶことができる教育手法です。その適応分野は、学校教育や社会教育、企業研修などの広い分野において導入されています。

⑤対象

学校教育関係者，社会教育関係者，企業研修担当者，大学生など 各回 20 名

(2) 運営

①参加者

ア. 入門編

所属別	人数	地域別	人数
学校（教員）		長崎県	6
学校（学生）	3	佐賀県	4
青少年教育施設	7	福岡県	3
その他の教育機関	3	宮崎県	1
民間企業・団体	1		
計	14	計	14

イ. 応用編

所属別	人数	地域別	人数
学校（教員）	2	長崎県	5
学校（学生）		佐賀県	1
青少年教育施設	7	福岡県	5
その他の教育機関		山口県	1
民間企業・団体	3		
計	12	計	12

②指導

入門編の指導は当所職員が，応用編の指導は外部講師の門田卓史氏が行いました。
門田氏のプロフィールは以下のとおりです。

<講師プロフィール>

- 1975年広島県出身。株式会社 edu-activators 代表取締役 兼 トレーナー。
- 大学卒業後，IT企業で営業職を勤めた後，2003年から2015年までプロジェクトアドベンチャー・ジャパンにて指導者育成に携わるほか，企業や大学，スポーツチームを対象とした様々な分野にプログラムを提供。2016年に株式会社 edu-activators を設立，同社の代表取締役として現在に至る。
- 人材開発トレーナーとして，企業（新入社員からエグゼクティブクラス）や大学，学校教育，社会教育，野外教育などの分野を対象に，人材育成，人材開発，組織開発，チームビルディング，ファシリテーション・トレーニングプログラムの開発・提供を行っている。

③入門編のプログラム

ア. プログラム

6月16日(土)	6月17日(日)
13:00 受付	06:30 起床
13:30 開講式	07:30 朝食
【セッション1】	09:00 【セッション3】
18:00 夕食	12:00 昼食
19:00 入浴	13:00 【セッション4】
20:00 【セッション2】	15:00 閉講式
21:00 情報交換会	
22:30 就寝	

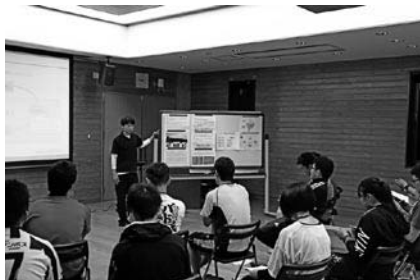
イ. 活動の様子



【セッション1】

本研修会への参加動機や期待することなどを確認した後、理論の土台となる体験として、アイスブレイクやイニシアティブゲームを行いました。

アイスブレイクでは、まず2人組などの少人数で行うゲームから始め、徐々に全員が関わるようなゲームを行いました。



【セッション2】

体験を意味づける理論の講義として、アドベンチャー教育プログラムの代表ともいえる「プロジェクトアドベンチャー」の理論について紹介しました。



【セッション3】

理論を確認する体験として、イニシアティブゲームを行いました。

- ニトロクロッシング
- スパイダーネット
- トラストフォール など



【セッション4】

体験や理論のまとめの時間としました。

まず、2日間で体験したアクティビティの内容や特徴を全員で模造紙にまとめました。

最後に、各自が2日間の体験をふりかえり、自身の変化やグループのメンバーに伝えたいことをまとめ、それらをメンバー全員でわかちあいました。

④応用編のプログラム

ア. プログラム

11月23日(金・祝)	11月24日(土)	11月25日(日)
	06:30 起床	06:30 起床
	07:30 朝食	07:30 朝食
13:00 受付	09:00 【セッション3】	09:30 【セッション6】
13:30 開講式 【セッション1】	12:00 昼食	12:00 昼食
18:00 夕食	13:00 【セッション4】	13:30 【セッション7】
19:00 入浴	18:00 夕食	15:00 閉講式
20:00 【セッション2】	19:00 入浴	
21:00 情報交換会	20:00 【セッション5】	
22:30 就寝	21:00 情報交換会	
	22:30 就寝	

イ. 活動の様子



【セッション1】

本研修会が目指すものや研修を進める上での前提条件などを、門田氏がアクティビティーを交えながら参加者に伝えられました。

その後は、参加者間のアイスブレイクも兼ねていくつかのアクティビティーをしながら、そのアクティビティーの意図開きをされました。



【セッション2】

参加者のニーズの再確認から始まりました。その中で、「グループとチーム」や「目標と目的」などの言葉の定義が曖昧だということで、これらの定義について確認する時間となりました。



【セッション3】

ブリーフィングとして、前日のおさらいと今日のめあての確認をしたあと、ロープスコースにて2つのアクティビティーにトライしました。

- ジャイアントシーソー
- モホークウォーク



【セッション4・5】

午前のモホークウォークのふりかえりを行った後、「体験学習サイクル」について解説がありました。

次に「体験もしくは経験は学びなのか?」「グループではなくチームで学ぶことの良さとは?」というテーマについてディスカッションを行いました。ディスカッションの後、「主体的な学び」や「学力向上との関係」について触れられました。

その後もアクティビティを交えながら、グループの発達段階に関するいくつかの理論を紹介されました。

夜の時間では、「体験学習サイクル」と「主体的で対話的な深い学び」の関係について解説されました。



【セッション6・7】

最終日は、参加者それぞれが指導者としての自身の器を広げていく準備の時間となりました。

まず、リーダーシップに関する理論と指導者のグループへのアプローチとの関係について、説明がありました。

その後、理想とする指導者像についてグループでディスカッションをし、午後にそのプレゼンを行いました。

最後は、自身が目指す指導者像について、マニフェストという形式で整理し発表しました。

(3) 評価

①アンケート結果

	満足	やや満足	やや不満	不満
入門編	100%	0%	0%	0%
応用編	100%	0%	0%	0%

②参加者の声

ア. 入門編

- グループの力を生かす手法を、体験を通して楽しく学ぶことができた。
- このようなグループづくりが、本音の言えるグループをつくるということがわかった。
- 研修を通して、どのようなことが自分あるいは子供にとって良い学びであるか、確認できた。
- 入門編にふさわしい時間の長さや質だと感じました。

イ. 応用編

- 理論を深く知ることができて、これからにつながるようなことばかりで良かった。
- 今まで自分が実践していたことが、理論的につながった。
- 今まで、ただやっていただけだったと自覚し反省した。今後の指導では、教わったことを活かしていきたい。

③成果と課題

ア. 成果

- 体験会と位置づけた入門編は、外部講師ではなく当所職員（アドベンチャー教育プログラムの指導経験を積んだ者）が講師を務めました。参加者には十分満足いただけたようです。また、指導に当たった職員自身も他者に指導する（教える）ことが、自身の理解の深化につながりました。
- 応用編は、アクティビティーの体験を交えながら理論を説明されたことで、腑に落ちやすかったと思われます。また、取り上げた理論もプロジェクトアドベンチャーに限定せず様々な分野と関連付けされたことで、プロジェクトアドベンチャーを知らない参加者でも理解が進んだようです。

イ. 課題

- アドベンチャー教育の手法を学校現場に普及すべく本研修会を開催していますが、参加者が思うように集まらないのが現状です。宿泊を伴う研修や週末開催の研修は、学校教員にとって負担が大きいと考えられるため、夏季休業期間等に開催するなどの工夫が必要だと思えます。また、当所の単独開催では集客力が弱いことも考えられるため、教育委員会等の関係機関と連携し、教員や施設職員の参加をより促していくことが必要だと思えます。
- 応用編に参加された方々がそれぞれの現場で実践していく中で、悩みや疑問が生じてくると思われます。今後は、実践を継続的にフォローしていくような取組（下図参照）ができればと思えます。



3. その他の事業

諫早市教育委員会委託事業「イングリッシュキャンプ」

平成30年5月12日（土）～ 13日（日）1泊2日

【担当 吉沢 佐智恵】



(1) 事業の背景

新小学校学習指導要領（平成29年3月告示）において、中学年に外国語活動、高学年に外国語科が導入されました。平成30、31年の学習指導要領移行期を経て、平成32年度から全面実施となります。外国語活動の目標1-（1）には、「外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする」と明記されており、外国語活動での体験学習の重要性が示されています。

そのような中、諫早市教育委員会が本年度から小学生を対象としたイングリッシュキャンプを開催することとなり、当所はその委託を受けることとなりました。

(2) 事業の進め方

①諫早市教育委員会との打ち合わせ

4月に、教育委員会学校教育課の担当者とALT6名と打ち合わせを行い、キャンプの趣旨や対象者、当日の流れなどを確認しました。自然体験活動の中に、外国語を話したり聞いたりする活動を取り入れることで、外国語を使う必然性を持たせ、子供たちがより外国語に慣れ親しむことをねらいとすることとしました。

次に、「色と形」をテーマに、英語を学び、自然体験活動の中で活用する活動を行うことを確認しました。また、文化についても楽しく学ぶ時間もつくることとしました。

ALTから「色や形」を学ぶゲームや文化について学ぶアイデアをもらいながら、キャンプのイメージを膨らませていきました。ここで決まったことをもとに、当所とALTがそれぞれキャンプの準備を進めました。

②他の講師やボランティアの手配

ALTは勤務の都合によりキャンプ初日の夕方までの参加となるため、ALT以外にも英語が堪能な講師やボランティアを集め、英語で説明したり、子供たちが英語で話したりできる環境を可能な限り設けることとしました。

(3) 事業の実際

①趣旨

自然体験活動の中で、外国語を聞いたり、話したりすることを通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。

②期日

平成30年5月12日（土）～13日（日） 1泊2日

③対象

諫早市内の公立小学校に在籍する小学3・4年生 30名

④プログラム

1日目	2日目
13:30 受付	6:30 起床
14:00 始まりの会	7:15 朝のつどい
14:30 イングリッシュゲーム	7:30 掃除
15:00 ミッションゲーム	8:15 朝食づくり (カートンドッグ)
16:00 キャンドルのつどい	10:00 ペンダントづくり
17:50 連絡	12:00 昼食
18:00 食事	13:00 ふりかえり
19:00 施設利用のオリエンテーション	13:30 終わりの会
19:30 入浴	14:00 解散
20:30 読み聞かせ	
21:30 就寝	

⑤活動の様子



始まりの会・イングリッシュゲーム

出会いの時間です。始まりの会では、「友達や外国の人とたくさん話そう!」「外国のことでもっと知りたいことを見つけよう!」という2つのめあてを提示し、活動を行いました。最初は緊張した表情の子供が多かったのですが、イングリッシュゲームでじゃんけん列車をしたり、「色」を学ぶためのフルーツバスケットをしたりして、英語を学びながら交流を深めていきました。左の写真は、「形」を学ぶゲームで、5人で集まって星の形を作っているところです。他にも、青い服を着ている子は「Blue」と言われたら移動する、というフルーツバスケットを行い、「色と形」について学んでいきました。



ミッションゲーム

イングリッシュゲームで学んだ「色と形」を使って、ALTが指定した「色と形」を探すミッションゲームをしました。野外に出て、自然の中から色を探し、丸や四角の形をくり抜いた形カードを当てて、「緑の丸」や「黄色の四角」等を作るゲームです。子供たちはALTの指示を聞いて、よく動いていました。

また、子供たちには、移動時間や待ち時間の間に、ALTの好きな色や好きな形を聞くように指示し、後の活動のプレゼントづくりのアイデアを集めさせました。空いた時間もALTとの会話を楽しむことができました。



キャンドルのつどい

このキャンプで様々なチャレンジをすることを目指すため、キャンドルに「チャレンジの火」を灯しました。それまでの楽しい雰囲気から、神聖な気持ちに切り替えて、炎の揺らめきを眺めました。



交流の時間では、アメリカの文化に関するクイズをしました。ALTが制作したクイズで、同じアメリカでも、地域によって食文化が違ったり、気候が違ったりすることをクイズの中で学びました。クイズは英語で出題されましたが、子供たちは内容を理解して動いていました。



絵本の読み聞かせ

夜の活動では、地元の英語教室の先生に講師として来ていただき、絵本の読み聞かせを行いました。子供たちは、こちらが指示していないのに、英文を繰り返して読み上げていました。その後、高校でALTをしている方にボランティアとして協力していただき、英語で歌ったり、一緒に踊ったりして楽しみました。ゆっくり歌ったり、スピードアップして歌ったりして、子供たちが飽きないように工夫しながら取り組みました。その後、翌日の活動のプレゼントづくりのため、グループでどんなペンダントを作るかを話し合いました。



カートンドッグづくり

2日目の朝食は「カートンドッグ」と呼ばれるキャンプ料理を作りました。パンにウインナー、キャベツなどの材料を挟んでホットドッグをつくります。それをアルミホイルに包み牛乳パックに入れて、牛乳パックを燃やすことで加熱して作ります。



子供たちは、キャンプのしおりに載せた作り方のイラストを見ながら英語の説明を聞いて作業しました。説明をよく聞いて、作業を進めることができました。



ペンダントづくり

2日目のメインの活動はペンダントづくりです。学んだ「色と形」を使って、自分のペンダントと、ALTの好きな「色と形」がついたプレゼント用のペンダントを作りました。最後に作ったペンダントの紹介も行いました。「I like yellow star.」など、全員が自分で紹介することができました。また、班の代表者は、ALTへのプレゼントの紹介をしました。「レティ先生は黄色が好きで、星の形が好きだから、黄色の星を書きました」など、理由を入れて紹介できました。



(4) 成果と課題

①成果

英語で学ぶ内容を「色と形」に限定し、繰り返し学べるようにしたことで、多くの参加者が自分の好きな色や形を英語で紹介できるようになりました。また、文化を知るためのクイズでは、英語の説明を聞いて答えを選ぶ時に、説明が難しくても、ALTに日本語で尋ねながら内容を理解して動くなど、難しい英語でもコミュニケーションのきっかけになることが分かりました。

アンケートの結果、83%の児童が「友達や外国の人とたくさん話すことができた」、59%の児童が「外国のことでもっと知りたいことを見つけることができた」と回答し、今後の外国語活動の意欲につながりました。

また、本事業は30名の募集に対し、約150名の応募があり、子供たちや保護者の方々が外国語に対して高い関心をもっていることがわかりました。また、クラフトや野外炊事などの自然体験活動は、参加者が外国語を話す機会が少ないように思えますが、指導者の説明を聞かないとうまくできない活動なので、英語の説明を聞く必然性があり、分からないことは積極的に質問する様子が見られ、自然と外国語に触れることができました。今回のキャンプで、自然体験活動の中に外国語活動を組み込むことの有効性を感じることができました。

②課題

今回のキャンプは、諫早市教育委員会と連携して行いました。当初は、本所が主となって参加者を統率しながらキャンプを進め、ALTは指導補助として関わっていただく計画でしたが、キャンプの当日は、英語で指示を出すことができるALTが参加者の統率まで行っている場面も見られ、ALTの負担が大きくなってしまいました。打ち合わせの段階で、本所の職員が参加者の注目を集めるための英語での指示の出し方など、自然の家スタッフが英語での統率方法を学び、大事な場面では英語で指示が出せるようにする必要があったと感じました。

また、今回のキャンプでは、ALTと活動する時間に限りがあったため、「色や形」を学ぶ場面や文化を知る場面は屋内での活動となり、「自然の家ならでは」の活動でなく、学校での学習の延長のような活動となりました。そして、学んだことを活用する場面に自然体験活動を取り入れる流れとなりました。今後は、より自然の中で活動しながら英語を学ぶような工夫をしていくことが課題であると感じました。

4. 平成30年度事業実績一覧

No	事業種類	看板事業	事業名	回数	対象	募集人数(人)	備考	
1	地域力向上	看板	中1ギャップに対応したプログラム開発事業	全4回	小学6年生	各30	協力:長崎大学	
2			生活・自立支援キャンプⅠ(ひとり親家庭の子ども支援事業)	全3回	ひとり親家庭の児童	各15	協力:県内の母子寡婦会	
3			生活・自立支援キャンプⅡ(児童養護施設の子どもの支援事業)	1回	児童養護施設の児童生徒	15	対象:希望の灯学園	
4			公立青少年教育施設とのプログラム共同開発事業	年3回程度	小学5年生	30	共催:長崎県教育庁	
5		新規	教科等に関連付けた体験活動プログラム開発事業	1回	小学5年生	40	協力:諫早市立長田小学校	
6	普及啓発		タラッキーキャンプ(春編)	2回	小学3~4年生	各40		
7			タラッキーキャンプ(木育編)	1回	小学5~6年生	40	共催:長崎県緑化推進協会	
8			タラッキーキャンプ(防災編)	1回	小学4~中学3年生	30	共催:雲仙岳災害記念館	
9			タラッキーキャンプ(秋編)	2回	小学1~2年生	各40		
10			タラッキーキャンプ(ジオ編)	1回	小学5~中学1年生	20	協力:島原半島ジオパーク協議会、コスモス花宇宙館	
11			アドベンチャーキャンプ	1回	小学3~中学3年生	30	共催:とりかぶと自然学校	
12			ファミリーキャンプ(初夏編)	1回	幼児や小学生のいる家族	60		
13			ファミリーキャンプ(秋編)	1回	幼児や小学生のいる家族	40	協力:長崎県央振興局	
14			ファミリーキャンプ(クリスマス編)	1回	幼児や小学生のいる家族	60		
15			仲間とつながる力をつけるキャンプ	1回	小学5~6年生	20	協力:長崎大学	
16			ドリーム教室(ソフトボール編)	1回	中学生のソフトボールチーム	200		
17			ドリーム教室(バスケットボール編)	2回	中学生のバスケットボールチーム	各240		
18			ドッジボール・フェスティバル	1回	小学生のドッジボールチーム	240	協力:長崎県ドッジボール協会	
19			みんなで山をさるこう会	全10回	登山ができる方	各20	共催:佐賀県北山少年自然の家、佐賀県黒髪少年自然の家	
20		指導者養成		NEALリーダー養成事業	1回	青少年教育・学校教育関係者、大学生	20	
21				NEALインストラクター養成事業	1回	青少年教育・学校教育関係者、大学生	20	
22			新規	グループづくりに役立つプログラム研修会(入門編)	1回	教員、施設職員、大学生等	20	
23				グループづくりに役立つプログラム研修会(応用編)	1回	教員、施設職員、大学生等	16	
24			新規	スウェーデンから学ぶ野外教科学習セミナー	1回	教員、施設職員、大学生等	30	共催:諫早市
25			自然体験活動ボランティア養成研修	1回	大学生、社会人	30	NEALリーダー・カリキュラムの読み替えあり	
26			ボランティア自主企画事業	1回	小学生	30		
27			教員免許状更新講習	全4回	受講対象者	各30	共催:長崎大学	

▼地域ぐるみで体験の風をおこそう運動推進事業・・・うち、当所が主導する事業を抜粋

28			子ども体験活動フェスティバル	1回	幼児や小学生のいる家族、学童クラブ等	2,000	
29			自然の家通学キャンプ	全4回	小学3~4年生	各60	
30			子どもゆめ基金助成金募集説明会	9月中に日帰り2回	青少年団体関係者等	各20	協力:長崎県教育庁、佐賀県まなび課

▼その他の事業

31		新規	イングリッシュキャンプ	1回	小学3年生	30	委託:諫早市教育委員会
----	--	----	-------------	----	-------	----	-------------

▼特別研修支援

32			長崎大学教育学部 野外体験リーダー研修	2回	長崎大学教育学部2年生	①109 ②130	共催:日吉自然の家
33			諫早市少年センター「適応指導教室」	年6回程度	適応指導教室に通う児童及び生徒	各10	
34			大牟田市「適応指導教室」	1回	適応指導教室に通う児童及び生徒	10	

Ⅱ 事業・管理運営の記録

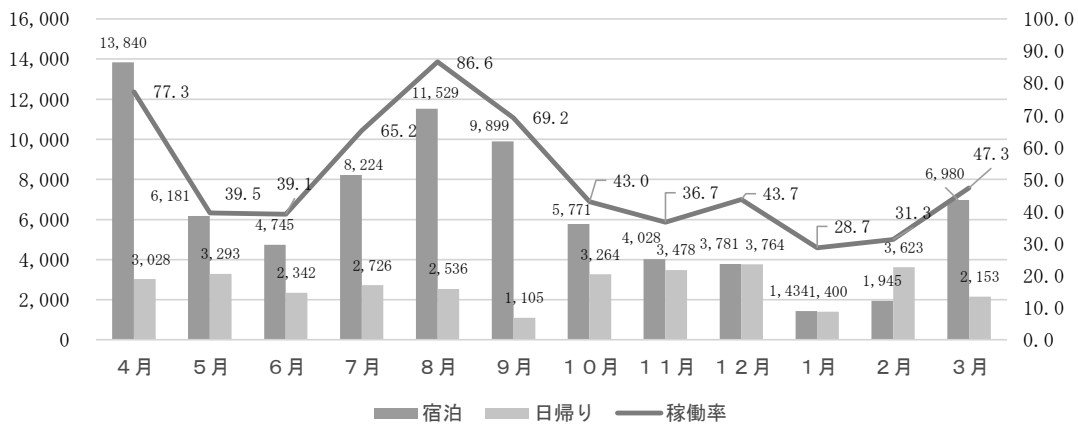
1. 平成30年度利用実績

(1) 利用者数・利用団体数・稼働率

① 利用者数及び稼働率

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修支援 (人)	宿泊	13,729	5,907	4,398	8,187	11,045	9,472	4,939	2,784	3,019	921	1,484	6,019	71,904
	日帰	1,282	887	1,139	1,632	1,833	596	738	688	3,191	430	445	661	13,522
	計	15,011	6,794	5,537	9,819	12,878	10,068	5,677	3,472	6,210	1,351	1,929	6,680	85,426
教育事業 (人)	宿泊	111	274	347	37	484	427	832	1,244	762	513	461	961	6,453
	日帰	1,746	2,406	1,203	1,094	703	509	2,526	2,790	573	970	3,178	1,492	19,190
	計	1,857	2,680	1,550	1,131	1,187	936	3,358	4,034	1,335	1,483	3,639	2,453	25,643
総合計 (人)	宿泊	13,840	6,181	4,745	8,224	11,529	9,899	5,771	4,028	3,781	1,434	1,945	6,980	78,357
	日帰	3,028	3,293	2,342	2,726	2,536	1,105	3,264	3,478	3,764	1,400	3,623	2,153	32,712
	計	16,868	9,474	7,087	10,950	14,065	11,004	9,035	7,506	7,545	2,834	5,568	9,133	111,069
稼働率(%)		77.3	39.5	39.1	65.2	86.6	69.2	43.0	36.7	43.7	28.7	31.3	47.3	52.0

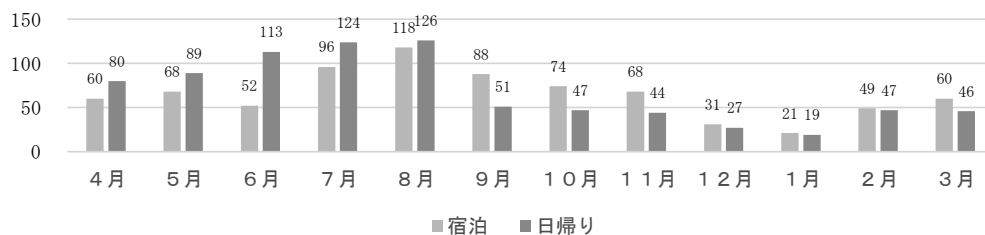
図1 利用者数及び稼働率月別推移



② 利用団体数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修支援 (団体)	宿泊	58	61	44	95	115	82	66	51	25	17	40	54	708
	日帰	75	78	99	120	121	45	45	35	23	15	37	39	732
	計	133	139	143	215	236	127	111	86	48	32	77	93	1,440
教育事業 (団体)	宿泊	2	7	8	1	3	6	8	17	6	4	9	6	77
	日帰	5	11	14	4	5	6	2	9	4	4	10	7	81
	計	7	18	22	5	8	12	10	26	10	8	19	13	158
総合計 (団体)	宿泊	60	68	52	96	118	88	74	68	31	21	49	60	785
	日帰	80	89	113	124	126	51	47	44	27	19	47	46	813
	計	140	157	165	220	244	139	121	112	58	40	96	106	1,598

図2 利用団体数月別推移

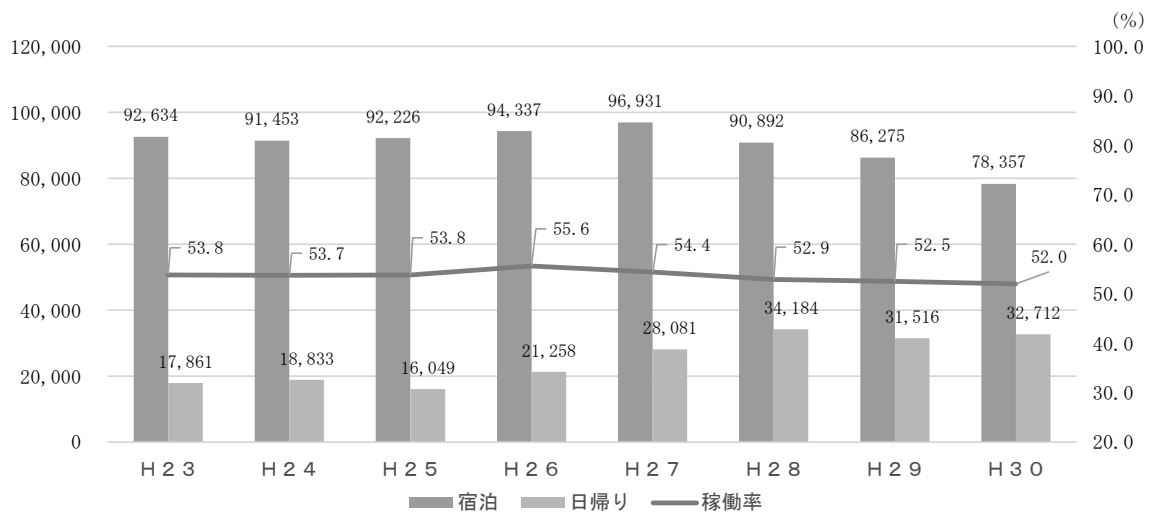


(2) 平成23年度から平成30年度までの利用者数・利用団体数・稼働率

① 利用者数及び稼働率

		H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
研修支援 (人)	宿泊	88,461	86,926	89,276	90,810	92,643	84,729	79,545	71,904
	日帰	7,038	7,186	12,466	12,526	14,379	15,380	14,960	13,522
	計	95,499	94,112	101,742	103,336	107,022	100,109	94,505	85,426
教育事業 (人)	宿泊	4,173	4,527	2,950	3,527	4,288	6,163	6,730	6,453
	日帰	10,823	11,647	3,583	8,732	13,702	18,804	16,556	19,190
	計	14,996	16,174	6,533	12,259	17,990	24,967	23,286	25,643
総合計 (人)	宿泊	92,634	91,453	92,226	94,337	96,931	90,892	86,275	78,357
	日帰	17,861	18,833	16,049	21,258	28,081	34,184	31,516	32,712
	計	110,495	110,286	108,275	115,595	125,012	125,076	117,791	111,069
稼働率(%)		53.8	53.7	53.8	55.6	54.4	52.9	52.5	52.0

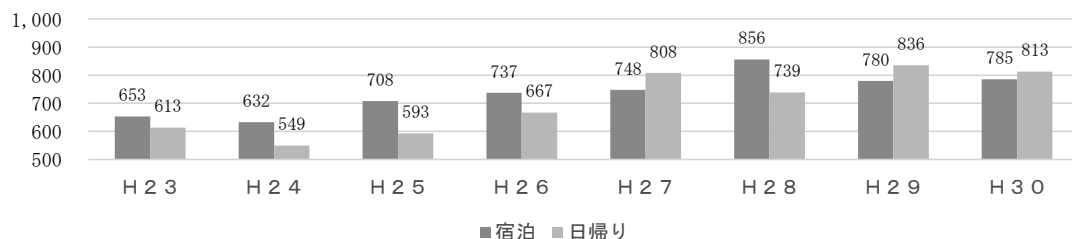
図3 利用者数及び稼働率経年比較



② 利用団体数

		H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
研修支援 (団体)	宿泊	633	607	675	691	702	762	704	708
	日帰	593	533	574	634	746	674	774	732
	計	1,226	1,140	1,249	1,325	1,448	1,436	1,478	1,440
教育事業 (団体)	宿泊	20	25	33	46	46	94	76	77
	日帰	20	16	19	33	62	65	62	81
	計	40	41	52	79	108	159	138	158
総合計 (団体)	宿泊	653	632	708	737	748	856	780	785
	日帰	613	549	593	667	808	739	836	813
	計	1,266	1,181	1,301	1,404	1,556	1,595	1,616	1,598

図4 利用団体数経年比較



(3) 団体種別利用状況

団体種別	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
幼稚園・保育園	4,788	4.3	95	5.9
小学校	12,521	11.3	222	13.9
中学校	6,449	5.8	53	3.3
高等学校	9,862	8.9	44	2.8
特別支援学校	663	0.6	29	1.8
大学・短大	1,877	1.7	16	1.0
その他の学校	1,989	1.8	22	1.4
青少年活動関係団体等	34,391	31.0	475	29.7
教育事業など	25,643	23.1	158	9.9
官公庁・企業	2,222	2.0	81	5.1
家族	717	0.6	102	6.4
その他	9,947	9.0	301	18.8
合計	111,069	100	1,598	100

- ・「その他の学校」とは、専修学校・専門学校、職業訓練校等の団体を区分しています。
- ・「その他」とは、上記以外の「教育関係施設」、「グループ・サークル」等の団体を区分しています。

図5 団体種別利用者数の割合

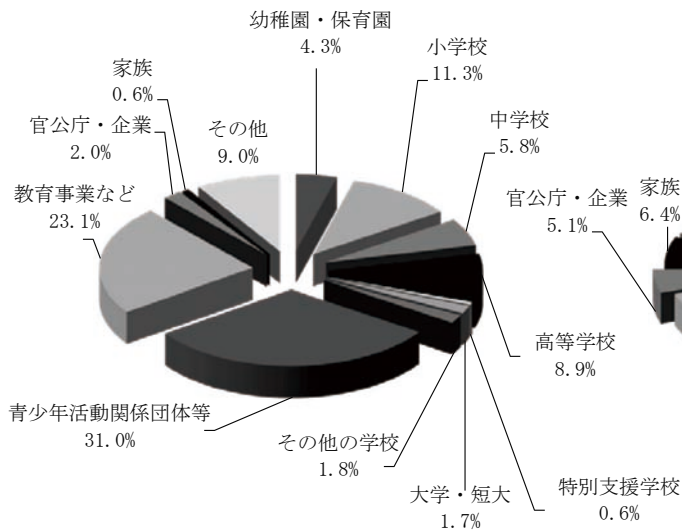
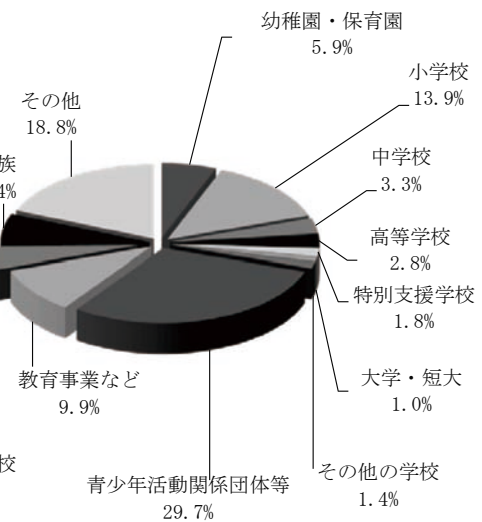


図6 団体種別利用団体数の割合



(4) 県別利用状況

都道府県	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
長崎県	64,854	77.7	803	81.6
福岡県	13,879	16.6	100	10.2
佐賀県	2,512	3.0	38	3.9
熊本県	703	0.8	8	0.8
その他	1,543	1.8	35	3.6
合計	83,491	100	984	100

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

図7 県別利用者数の割合

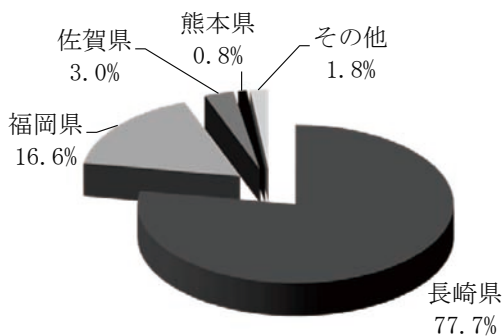
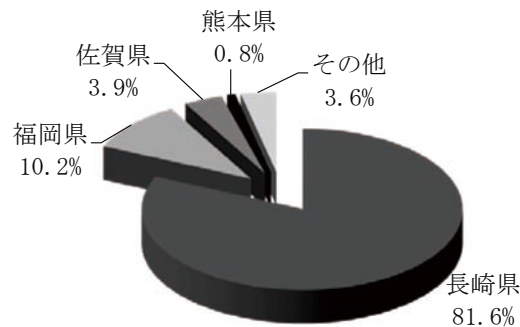


図8 県別利用団体数の割合



(5) 県ごとの団体種別利用実績

		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	大学短大	その他の学校	青少年活動団体	官公庁企業	家族	その他	合計
		保育園											
長崎県	利用団体数(団体)	62	64	19	15	14	10	11	309	55	78	166	803
	利用者数(人)	4,666	8,462	4,158	5,625	634	1,569	1,331	29,554	1,584	417	6,854	64,854
福岡県	利用団体数(団体)	0	30	3	9	0	1	2	23	6	5	21	100
	利用者数(人)	0	3,437	1,672	4,151	0	16	634	2,561	217	81	1,110	13,879
佐賀県	利用団体数(団体)	1	4	2	0	0	0	0	9	1	7	14	38
	利用者数(人)	26	288	537	0	0	0	0	738	186	62	675	2,512
熊本県	利用団体数(団体)	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	3	8
	利用者数(人)	0	0	0	0	0	0	0	447	120	8	128	703
その他	利用団体数(団体)	0	0	0	0	0	0	0	8	4	10	13	35
	利用者数(人)	0	0	0	0	0	0	0	451	85	139	868	1,543
合計	利用団体数(団体)	63	98	24	24	14	11	13	352	67	101	217	984
	利用者数(人)	4,692	12,187	6,367	9,776	634	1,585	1,965	33,751	2,192	707	9,635	83,491

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・「学校」が、授業外(勉強合宿・部活・クラスレクリエーション)で利用した場合は、「青少年活動団体」に区分しています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

(6) 長崎県内市町ごとの利用状況

市町名	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
諫早市	28,450	43.9	373	46.5
長崎市	17,718	27.3	195	24.3
大村市	7,604	11.7	98	12.2
雲仙市	548	0.8	14	1.7
島原市	2,428	3.7	24	3.0
南島原市	768	1.2	10	1.2
佐世保市	1,005	1.5	11	1.4
時津町	1,796	2.8	18	2.2
長与町	1,959	3.0	18	2.2
その他	2,578	4.0	42	5.2
合計	64,854	100	803	100

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

図9 長崎県内市町ごとの利用者数の割合

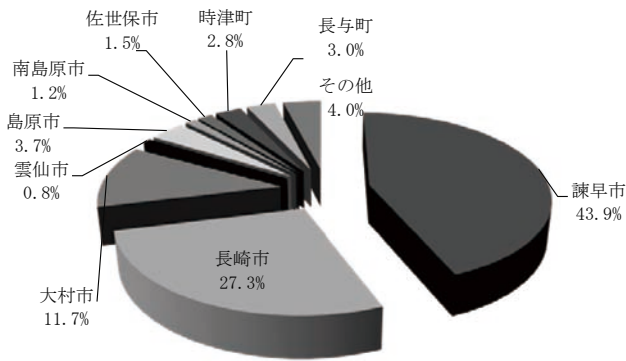
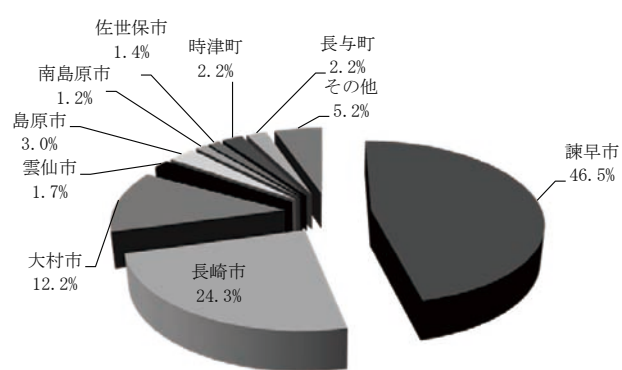


図10 長崎県内市町ごとの利用団体数の割合



(7) 長崎県内市町ごとの団体種別利用実績

市名	団体種別	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学	その他の	青少年	官公庁	家族	その他	合計
		保育園				学校	短大	の学校	活動団体	企業			
諫早市	利用団体数(団体)	16	26	15	3	3	1	4	139	26	42	98	373
	利用者数(人)	631	3,011	2,998	1,791	155	4	371	15,896	496	188	2,909	28,450
長崎市	利用団体数(団体)	27	5	3	4	2	9	5	80	10	15	35	195
	利用者数(人)	2,305	722	549	2,046	93	1,565	711	7,217	740	87	1,683	17,718
大村市	利用団体数(団体)	6	10	0	1	5	0	1	31	19	9	16	98
	利用者数(人)	548	1,888	0	170	185	0	88	3,231	348	57	1,089	7,604
雲仙市	利用団体数(団体)	2	2	0	0	0	0	0	4	0	1	5	14
	利用者数(人)	75	109	0	0	0	0	0	259	0	13	92	548
島原市	利用団体数(団体)	5	7	0	2	3	0	1	3	0	2	1	24
	利用者数(人)	760	660	0	568	155	0	161	105	0	6	13	2,428
南島原市	利用団体数(団体)	3	2	0	2	0	0	0	3	0	0	0	10
	利用者数(人)	100	136	0	363	0	0	0	169	0	0	0	768
佐世保市	利用団体数(団体)	1	0	0	0	0	0	0	7	0	1	2	11
	利用者数(人)	62	0	0	0	0	0	0	502	0	2	439	1,005
時津町	利用団体数(団体)	1	5	0	0	0	0	0	4	0	4	4	18
	利用者数(人)	111	951	0	0	0	0	0	217	0	30	487	1,796
長与町	利用団体数(団体)	0	4	1	1	1	0	0	3	0	4	4	18
	利用者数(人)	0	729	611	146	46	0	0	326	0	34	67	1,959
その他	利用団体数(団体)	1	3	0	2	0	0	0	35	0	0	1	42
	利用者数(人)	74	256	0	541	0	0	0	1,632	0	0	75	2,578
合計	利用団体数(団体)	62	64	19	15	14	10	11	309	55	78	166	803
	利用者数(人)	4,666	8,462	4,158	5,625	634	1,569	1,331	29,554	1,584	417	6,854	64,854

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・「学校」が、授業外(勉強合宿・部活・クラスレクリエーション)で利用した場合は、「青少年活動団体」に区分しています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

(8) 宿泊日数別利用状況

宿泊日数	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
日帰り	8,724	22.5	732	50.8
1泊2日	18,340	47.3	505	35.1
2泊3日	9,489	24.5	157	10.9
3泊4日	849	2.2	22	1.5
4泊5日	1,150	3.0	17	1.2
5泊以上	227	0.6	7	0.5
合計	38,779	100	1,440	100

・利用者数は、実利用者数を用いて算出しています。
 ・当所主催の教育事業を除いています。

図11 宿泊日数別利用者数の割合

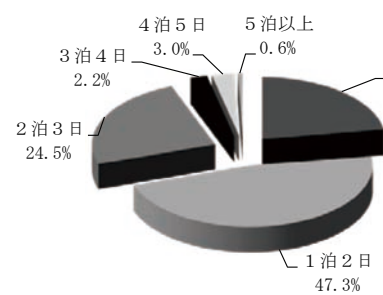
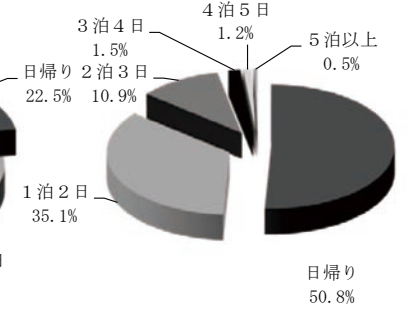


図12 宿泊日数別団体数の割合



(9) 利用者アンケート

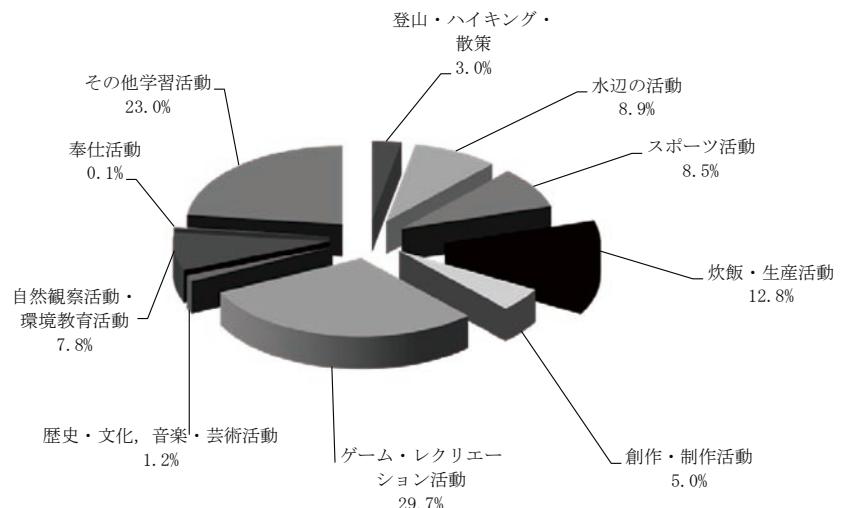
(%)

		満足	やや満足	やや不満	不満
事前の情報提供に関する満足度	H28	81.4	17.9	0.7	0.0
	H29	82.0	17.5	0.4	0.1
	H30	80.6	18.6	0.8	0.0
職員等の教育的支援に関する満足度	H28	87.3	11.8	0.9	0.0
	H29	87.5	10.3	2.0	0.3
	H30	88.4	10.7	0.8	0.1
活動プログラムに関する満足度	H28	86.8	12.4	0.7	0.1
	H29	88.0	11.8	0.0	0.2
	H30	87.3	11.7	1.1	0.0
職員の対応に関する満足度	H28	90.6	9.0	0.4	0.0
	H29	91.3	7.4	1.3	0.0
	H30	88.8	10.2	0.9	0.1
施設を利用したの総合的な満足度	H28	89.8	9.4	0.8	0.0
	H29	85.7	13.7	0.5	0.1
	H30	87.8	11.5	0.8	0.0

(10) 活動プログラム別利用状況

活動プログラム	利用件数	割合(%)
登山・ハイキング・散策	68	3.0
水辺の活動	202	8.9
スポーツ活動	192	8.5
炊飯・生産活動	290	12.8
創作・制作活動	113	5.0
ゲーム・レクリエーション活動	674	29.7
歴史・文化、音楽・芸術活動	28	1.2
自然観察活動・環境教育活動	177	7.8
奉仕活動	3	0.1
その他学習活動	523	23.0
合計	2,270	100

図13 活動プログラム別利用割合



(11) 開所からの利用状況

和暦	西暦	宿 泊		日 帰		総 計		
		団体数(団体)	利用者数(人)	団体数(団体)	利用者数(人)	団体数(団体)	利用者数(人)	
昭和	53	1978	163	22,453	—	—	163	22,453
	54	1979	428	86,601	—	—	428	86,601
	55	1980	489	117,570	—	—	489	117,570
	56	1981	466	138,144	—	—	466	138,144
	57	1982	428	142,494	—	—	428	142,494
	58	1983	460	146,857	—	—	460	146,857
	59	1984	406	151,007	—	—	406	151,007
	60	1985	455	153,593	—	—	455	153,593
	61	1986	465	156,750	—	—	465	156,750
	62	1987	492	157,146	—	—	492	157,146
	63	1988	565	158,195	—	—	565	158,195
平成	元	1989	585	158,789	—	—	585	158,789
	2	1990	579	159,933	—	—	579	159,933
	3	1991	602	160,610	—	—	602	160,610
	4	1992	622	153,276	—	—	622	153,276
	5	1993	603	141,314	—	—	603	141,314
	6	1994	643	127,045	21	1,705	664	128,750
	7	1995	712	124,072	22	1,517	734	125,589
	8	1996	731	124,034	17	1,852	748	125,886
	9	1997	636	113,898	12	645	648	114,543
	10	1998	622	108,750	27	1,110	649	109,860
	11	1999	585	104,592	31	1,706	616	106,298
	12	2000	560	98,888	42	2,228	602	101,116
	13	2001	518	91,016	127	5,245	645	96,261
	14	2002	599	94,632	273	5,996	872	100,628
	15	2003	695	102,799	400	7,381	1,095	110,180
	16	2004	634	97,555	514	8,841	1,148	106,396
	17	2005	714	96,400	571	9,668	1,285	106,068
	18	2006	664	95,838	626	6,854	1,290	102,692
	19	2007	619	93,318	570	7,352	1,189	100,670
	20	2008	711	93,427	702	12,395	1,413	105,822
	21	2009	731	93,102	614	15,549	1,345	108,651
	22	2010	650	96,890	580	10,097	1,230	106,987
	23	2011	653	92,634	613	17,861	1,266	110,495
	24	2012	632	91,453	549	18,833	1,181	110,286
	25	2013	708	92,226	594	16,051	1,302	108,277
	26	2014	737	94,337	667	21,258	1,404	115,595
	27	2015	748	96,931	808	28,081	1,556	125,012
	28	2016	856	90,892	739	34,184	1,595	125,076
	29	2017	780	86,275	836	31,516	1,616	117,791
	30	2018	785	78,357	813	32,712	1,598	111,069
	計		24,731	4,684,093	10,768	300,637	35,499	4,984,730

※昭和53年度～平成5年度の利用者数は現行とカウントの仕方が異なっていたために、現行の方法に合わせて試算しています。

(12) 傷病発生状況

①内科系

(件数)

	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	倦怠感(だるさ)	その他	合計
登山・ハイキング	3				1	1		1							6
オリエンテーリング・ウォークラリー	1					4		3							8
アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	1													1	2
スポーツ活動	1					2		1		1		1	1	2	9
沢登り・川遊び														1	1
野外炊事		1				1			2	1				2	7
創作活動(クラブト等)		1				1				1				1	4
研修・学習活動	2			1	1	1		1		1	1	1	2		11
自由時間	4					1		1		1		1		1	9
つどい(朝・夕)									1						1
清掃	1				1					1				1	4
食事	1		1					4	2	4				2	14
入浴								1							1
就寝時間(起床時も含む)	4					1				2					7
移動中					1			1		1					3
入所前	1							1	1						3
その他			2				1	1							4
合計	19	4	1	1	4	12	1	15	6	13	1	3	8	6	94

図14 状況別傷病発生率(内科系)

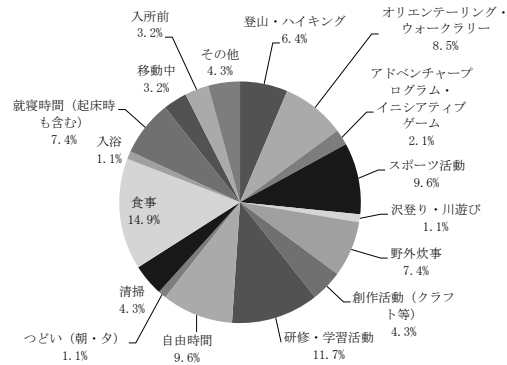
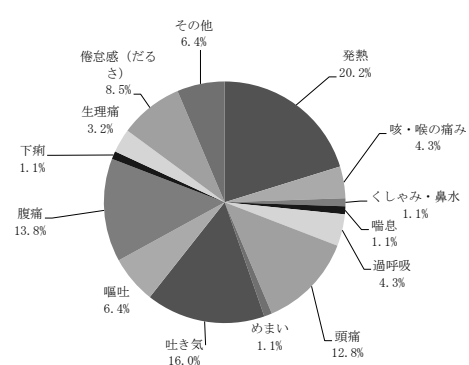


図15 傷病種類別発生率(内科系)



②外科系

(件数)

	きり傷	すり傷	やけど	打撲	突き指	ねんざ	骨折	歯の破折	目のけが	虫刺され	その他	合計
オリエンテーリング・ウォークラリー	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
スポーツ活動	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
沢登り・川遊び	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	4
野外炊事	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	4
自然観察	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
研修・学習活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
自由時間	2	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	5
つどい(朝・夕)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
就寝時間(起床時も含む)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
移動中	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	3
合計	4	1	1	4	1	2	3	1	1	2	4	24

図16 状況別傷病発生率(外科系)

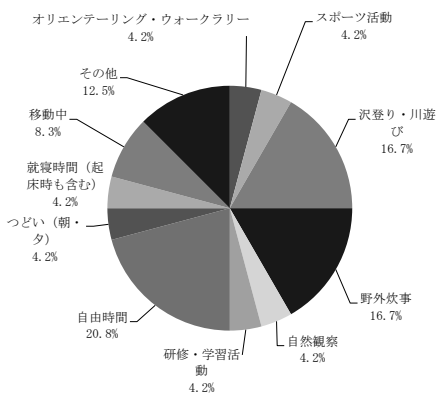
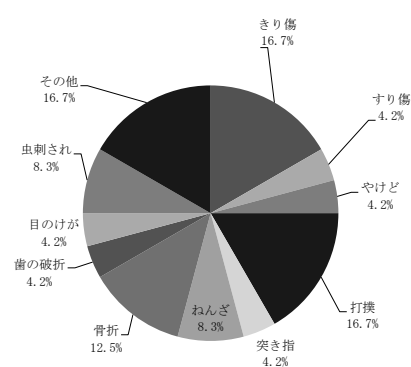


図17 傷病種類別発生率(外科系)



2. 利用者の安全及びサービス面の向上のために

(主な工事・施設保全・物品購入の状況)

(1) 屋外多目的広場の整備

近年利用が増加しているファミリーや幼稚園、保育園の小規模団体及び障がいのある方々のニーズに対応した野外活動プログラムを今後提案していくため、平成29年度末にピッツァ窯を導入しました。そのピッツァ窯を使つてのピッツァづくりの場所として第2駐車場付近を屋外多目的広場として整備しました。



屋根付きの広場には、ピッツァ窯を設置したほか、水道設備を完備しました。また、利用者がくつろいで活動ができるように、持ち運び式のテーブルセットを置きました。さらにピッツァ窯の設置場所は車椅子での利用も容易であるため、多くの利用が見込まれ、利用者の満足度向上に期待が持てます。



今後は、整備した屋外多目的広場の利用を広く呼びかけるとともに、さらなる備品の設置や、活動プログラムの提案を本格的に行います。

(2) レストラン用の椅子の補修

レストラン用の椅子について、経年劣化等でスポンジの部分が裂けてしまっているなど、傷みがはげしいものが複数ありました。より快適な食空間を利用者へ提供できるよう、40脚の布地の補修を実施しました。



(3) 施設案内ボードの設置

利用者に対し、より分かりやすく活動場所の案内ができるよう、事務室前に新たに施設案内ボードを設置しました。ホワイトボードのようにペンで記入できるため、必要に応じて図示しながら説明することも可能です。



(4) キャンプ村用の椅子の購入

キャンプ村に設置してある椅子について、劣化・損傷が著しく、使い勝手が悪い状態であったため、安価で丈夫な刑務所作業製品を20脚購入しました。



(5) 環境学習館プロジェクターの更新

天井格納式で電源の消し忘れが確認しづらい仕様であったため、常時設置式でより使いやすいタイプに更新しました。



(6) レストラン厨房の冷蔵庫更新

経年による機能の低下を防ぎ、食材を安全に保存するとともに利用者への食事の提供に万全を期すため、冷蔵庫を更新しました。



(7) 屋外多目的広場への物置設置

屋外多目的広場で使用する野外炊飯関連の道具について、劣化を防止するため、プレハブ物置を設置し、庫内に保管することにしました。



(8) あそびの森遊具の点検改修

利用者が楽しく、安心して活動できるよう木製遊具の点検を行い、木の腐食やぐらつき、ロープの破損や緩み等を確認し、不具合のあった遊具の改修を行いました。



(9) 持ち運び式テーブルセットの購入

主に屋外多目的広場での活動の際に、家族等がくつろげるように、テーブルセットを購入しました。持ち運びが可能であるため、ブース出展やキャンプ等の際にも利用可能です。



(10) 消火器、誘導灯、屋内消火栓の修繕工事

年 2 回の消防設備機器の法定点検にて不具合のあった機器の交換、調整、修理を行いました。各機器が火災時に確実に作動するように、機能維持に努めています。



(11) 宿泊棟，プレイホール，研修室等ワックス塗布

施設の保全と衛生環境維持ため，各建物床面の古いワックスを剥離し，新たにワックスを塗布しました。



(12) ミーティングルーム等LED照明改修工事

政府の方針である「2020年までに，公的設備・施設のLED等高効率照明の導入率100%達成」を受け，所内の照明機器を省エネ効果が高く，明るいLED照明に順次更新しています。本年度は本館ミーティングルーム及びプレイホール横トイレ等の照明をLED照明へ改修しました。



(13) 小児用ライフジャケットの購入

幼児等向けの沢遊びのプログラムを充実していくにあたり，より安全に沢での活動にチャレンジができるように，小児用ライフジャケットを購入しました。



3. 施設業務運営委員

(1) 委員名簿

	氏名	職名
1	江口 康	佐賀県県民環境部まなび課生涯学習・体験担当係長
2	大谷 俊浩	福岡県教育庁教育振興部社会教育課主幹社会教育主事
3	大野 幸雄	諫早市PTA連合会会長
4	小原 達朗	長崎大学名誉教授
5	角野 良介	諫早市立喜々津東小学校校長
6	田代 博昭	長崎県青少年教育施設協議会会長
7	野口 美砂子	NPO法人インフィニティー理事長
8	藤山 誠治	諫早市教育委員会生涯学習課課長
9	松尾 孝一	一般財団法人長崎県子ども育成連合会事務局長
10	水田 明光	社会福祉法人西崎福社会ながた保育園園長
11	室野 亜津子	長崎県福祉保健部こども政策局こども未来課係長
12	森 永 玲	長崎新聞社取締役編集局長
13	山口 千樹	長崎県教育庁生涯学習課課長

(委員氏名50音順)

平成30年度から施設業務運営委員会は、地域における体験活動の充実を図るとともに、地域と施設が一体となった管理運営を目指すため、地域の青少年教育団体・NPO・企業・自治体等多様な主体が、施設の管理運営や事業の企画・実施へ参画する形の「運営協議会」方式を導入しました。

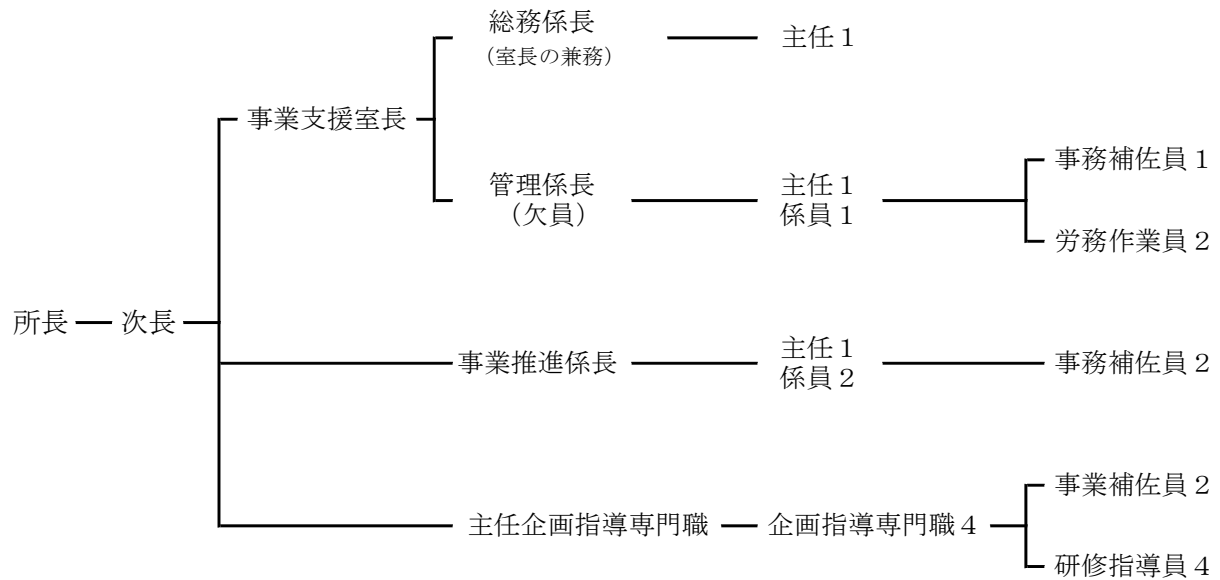
(2) 開催状況

平成30年度は、施設業務運営委員会を下表のとおり開催しました。

	期日	議題
第1回	平成30年7月19日	(1) 国立諫早青少年自然の家について (2) 平成30年度計画について (3) 今後の予定について
第2回	平成31年2月5日	(1) 平成30年度事業等報告 ①事業概要 ②利用概要 ③施設管理状況 ④中期的な事業計画 (2) 専門部会の設置について

4. 組織図・職員名簿(平成31年3月現在)

(1) 組織図



所長 1	次長 1	室長 1	係長 1	主任専門職 1	専門職 4	主任 3・係員 3	非常勤職員 1 1	合計 2 6
------	------	------	------	---------	-------	-----------	-----------	--------

(2) 職員名簿

職名	氏名
所長	内山祐二郎
次長	林田一彦

職名	氏名	
事業支援室長(兼)総務係長	平野 悟	
総務係主任	(主任)高木将秀	
管理係長	—	
管理係主任・係員	(主任)徳永良宏	大井手仁美
事務補佐員	中道あゆみ	
労務作業員	小森庄二	辻 正則

職名	氏名			
事業推進係長	上戸正仁			
事業推進係主任・係員	(主任)樋口達也	鋤塚 薫	園部 翔	
事務補佐員	中島康子	高谷直美		

職名	氏名			
主任企画指導専門職	渡部孝一			
企画指導専門職	山口圭吾	力丸 資	原 将成	吉沢佐智恵
事業補佐員	宇都志津佳	山口瑠香		
研修指導員	岡部一樹	大串陽水	吉原裕介	福菌恵子

Ⅲ 参考

いさはや自然の家 2019年度事業計画一覧



【小学生・中学生を対象とした事業】

番号	事業名	開催日	対象	募集人数	趣旨
1	タラッキーキャンプ (初夏編)	①5/11(土)～5/12(日) ②5/18(土)～5/19(日)	小学3・4年生	各40名程度	自然体験活動や共同宿泊体験を通じて、自然に親しむ心情や社会性を育む。
2	タラッキーキャンプ (秋編)	9/28(土)～9/29(日)	小学1・2年生	60名程度	自然体験活動や共同宿泊体験を通じて、自然に親しむ心情や社会性を育む。
3	タラッキーキャンプ (冬編)	12/14(土)～12/15(日)	小学3・4年生	40名程度	自然体験活動や共同宿泊体験を通じて、自然に親しむ心情や社会性を育む。
4	自然の家通学キャンプ	①1/16(木)～1/18(土) ②1/23(木)～1/25(土) ③1/30(木)～2/1(土) ④2/13(木)～2/15(土)	小学3・4年生	各60名程度	自然の家で共同生活を送りながら学校に通学する活動を通して、「早寝早起き朝ごはん」といった基本的な生活習慣や家庭学習の習慣を身につける契機とともに、メディア依存対策の一助とする。
5	イングリッシュ・キャンプ	10/5(土)～10/6(日)	小学3・4年生	30名程度	自然体験活動の中で英語を聞いたり話したりすることを通して、英語によるコミュニケーションの楽しさを実感させるとともに、言語や文化について体験的に理解を深める。
6	防災キャンプ	9/7(土)～9/8(日)	小学4年生～ 中学3年生	40名程度	災害から身を守るために必要な知識・技能を身につけ、防災に関して真摯な態度の育成を図る。災害時に想定される避難所生活の疑似体験を通して、主体的に判断し行動する力や、互いに助け合う心情を大きく育む。
7	木育キャンプ	①11/9(土)～11/10(日) ②11/30(土)～12/1(日)	小学4・5年生	各40名程度	自然体験活動や共同宿泊体験を通じて、自然に親しむ心情や社会性を育む。製材所の見学を通して、木材の有効的な活用について学ぶ。
8	ジオキャンプ	12/6(金)～12/8(日)	小学5年生～ 中学1年生	20名程度	島原半島ジオパークでの地質観察と岩石標本作成、コスモス花宇宙館での天体観察などを通して、自然を観察する力を身につけるとともに、好奇心や探求心を高める。
9	アドベンチャーキャンプ	8/18(日)～8/24(土)	小学3年生～ 中学3年生	30名程度	小学校3年生から中学校3年生までの子供たちが、非日常的な環境における長期の自然体験活動を通して、友達と協力することの大切さに気付くとともに、自然に親しむ心や感謝の心を大きく育む。また、挑戦的な活動を行うことで、自己の体力の向上を図る。
10	小6交流キャンプ	①11/15(金)～11/17(日) ②11/22(金)～11/24(日)	小学6年生	各40名程度	中学校への進学を目前に控えた子供たちが、自然の家で共同生活を送りながら交流を深め、進学への不安を払拭し、よい新生活を送れるようにする。
11	仲間とつながる力をつけるキャンプ	3/14(土)～3/15(日)	小学5・6年生	20名程度	「アサーティブ・コミュニケーション」(さわやかな自己表現)を用いたプログラム体験を通して、より良い人間関係を築く力を育む。



【ファミリーを対象とした事業】

番号	事業名	開催日	対象	募集人数	趣旨
1	ファミリーキャンプ (初夏編)	6/8(土)～6/9(日)	幼児や小学生がいる 家族	12家族程度	親子で自然体験活動や宿泊活動を行うことにより、自然に親しむ心情を育み、家族の絆を深める。
2	ファミリーキャンプ (秋編)	10/19(土)～10/20(日)	幼児や小学生がいる 家族	12家族程度	親子で自然体験活動や宿泊活動を行うことにより、自然に親しむ心情を育み、家族の絆を深める。
3	キャンプの日	毎月第3土日 ※9月以降を予定	幼児や小学生のいる家族	12家族程度	親子で自然体験活動や宿泊活動を行うことにより、自然に親しむ心情を育み、家族の絆を深める。



【どなたでも参加可能な事業】					
番号	事業名	開催日	対象	募集人数	趣 旨
1	子ども体験フェスティバル	10/26(土)～10/27(日)	幼児や小学生のいる 家族、 学童クラブ等	制限なし	様々な体験活動を通して、体験活動の楽しさを体感してもらうとともに、体験活動の重要性の普及と啓発を図る。また、本事業の取組を通して、関係団体との連携をより一層緊密にし、長崎県下各市町を中心に、地域における体験活動の定着・発展を推進する。
2	みんなで山をさるこう会	①6/25(火)～6/26(水) ②9/3(火)～9/4(水) ③10/16(水)～10/17(木) ④11/12(火)～11/13(水) ⑤12/10(火)～12/11(水) ⑥1/21(火)～1/22(水) ⑦2/19(水)～2/20(木) ⑧3/11(水)～3/12(木)	登山ができる方	各20名程度	美しい自然の残る多良山系への登山を通して、自然に親しむ。また、参加者同士の親睦を深め、生きがいと健康づくりの一助とする。

【スポーツ団体を対象とした事業】

番号	事業名	開催日	対象	募集人数	趣 旨
1	ドリーム教室 (ソフトボール編)	1/11(土)～1/12(日)	中学生の女子 ソフトボールチーム	200名程度	ソフトボールの実業団チームであるトヨタ自動車の監督・選手による講習を通じて、個人やチームのレベルアップを図るとともに、チームを越えた子供同士の交流を図る。
2	ドリーム教室 (バスケットボール編)	【男子】 11/30(土)～12/1(日) 【女子】 2/22(土)～2/23(日)	中学生のバスケット ボールチーム	各240名程度	バスケットボールの講習会と大会を通じて、個人技術のレベルアップとチームワークの向上を図るとともに、チームを越えた子供同士の交流を図る。
3	ドッジボール フェスティバル	3/7(土)～3/8(日)	小学生の ドッジボールチーム	240名程度	ドッジボール大会を通して、チームワークを高めたり、個人技能のレベルアップを図ったりするとともに、他のチームとのレクリエーションや共同生活体験により、チームの枠を越えた子供同士の交流を図る。



【指導者を養成する事業】

番号	事業名	開催日	対象	募集人数	趣 旨
1	グループづくりに役立つ プログラム研修会 (体験編)	8/6(火)	教員 施設職員 大学生等	20名程度	グループの力を生かす体験活動プログラムの体験を通して、体験教育・アドベンチャー教育の必要性や有効性を実感させる。
2	グループづくりに役立つ プログラム研修会 (ステップアップ編)	11/2(土)～11/4(月・祝)		20名程度	グループの力を生かす体験活動プログラムの体験と理論講習を通して、体験教育・アドベンチャー教育の理論や手法に関する理解を深める。
3	グループづくりに役立つ プログラム研修会 (フォローアップ編)	2/1(土)～2/2(日)		20名程度	体験教育・アドベンチャー教育に関する参加者相互の実践を振り返り、その成果や課題を共有することで、継続的な取組を促すとともに、実践の質を高める。
4	自然体験活動ボランティア 養成研修 ※NEALリーダー養成 事業(前期)を兼ねる	6/22(土)～6/23(日)	大学生、社会人	30名程度	青少年の体験活動事業で活動するボランティアスタッフに求められる基礎的な知識・技術を習得するとともに、ボランティア活動への参加意欲を高める。
5	NEALリーダー養成事業 (後期)	10/12(土)～10/13(日)	青少年教育 学校教育関係 大学生	20名程度	自然体験活動指導者認定制度のもと、自然体験活動指導者(NEALリーダー)の資格取得に必要な講習会(概論1)を開催し、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する指導者を養成する。



国立諫早青少年自然の家

〒859-0307 長崎県諫早市白木峰町1109-1

Tell: 0957-25-9111 FAX: 0957-25-9115

森と溪流のイサハヤ
人づくり・仲間づくりのイサハヤ



マスコットキャラクター
ヤマネのタラッキー

平成30年度 国立諫早青少年自然の家 所報
平成31年4月

編集・発行 独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立諫早青少年自然の家
〒859-0307 長崎県諫早市白木峰町1109-1
TEL:0957-25-9116 FAX:0957-25-9115
URL: <https://isahaya.niye.go.jp/>
E-mail: isahaya-so@niye.go.jp

「早寝早起き朝ごはん」国民運動

地域社会・学校・家庭が一体となって、心身ともに健康な子供たちの育成を目指す運動です。

- 望ましい生活習慣の育成
- 生活リズムの重要性の再認識
- 学習意欲・体力・気力の向上
- 地域ぐるみで支援するための環境整備
シンボルマークの使用など、詳しくは全国協議会のホームページをご覧ください。

早寝早起き朝ごはん [検索](#)



「体験の風をおこそう」運動

社会が豊で便利になる中で、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している状況を踏まえ、子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝え、社会全体で体験活動を推進する機運を高める運動です。
詳しくは「体験の風をおこそう」運動のホームページをご覧ください。

体験の風をおこそう [検索](#)



【多良山系・五家原岳】

「国立諫早青少年自然の家」が位置する「多良山系・五家原岳」は、山頂から東に「有明海」西に「大村湾」南に「橘湾」と三つの海、諫早干拓、雲仙岳、周辺の美しい山なみが眺望できる景観の地です。

周辺には、豊かな水に育まれた針葉樹林が広がり、多くの野鳥や動物たちが生息しております。

また、市街地より比較的近距离で交通アクセスにも恵まれながら、深い暗闇に包まれた大自然の中で美しい星空を観測できる場所は国内でも稀で、貴重な観測ポイントとされています。

「国立諫早青少年自然の家」施設内では、特に自然体験・生活体験施設である「キャンプ村」が、森林内に位置するため、「流れ星を観測できた」との報告が多く聞かれるスポットのひとつです。